

片山
直人著

山林新説二編

上

卷之七上目録

- 緒言 凡例
- 檜ノ良材ヲ作ル事
 - 檜ヲ疎伐スル事
 - 檜ニ相應ノ地質
 - 檜ノ山林ヲ仕立ル事
 - 檜ヲ土地ニ由テ作ル事
 - 檜ヲ惡地ニ仕立ル事
 - 檜ヲ峻岨ノ山ニ仕立ル事
 - 檜ヲ峻山ニ仕立ル事

東京圖書

四	八	一	八		
冊	号	架	函	屬	類

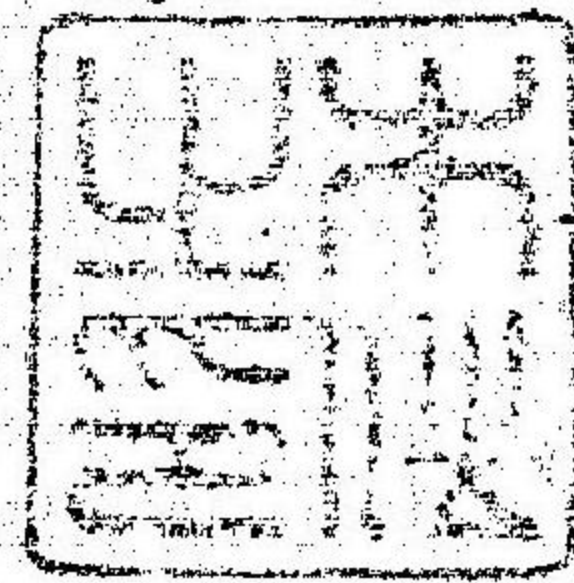
片山直人

明治十一年十二月上木

田中芳男 閱
片山直人 著

山林新說二編

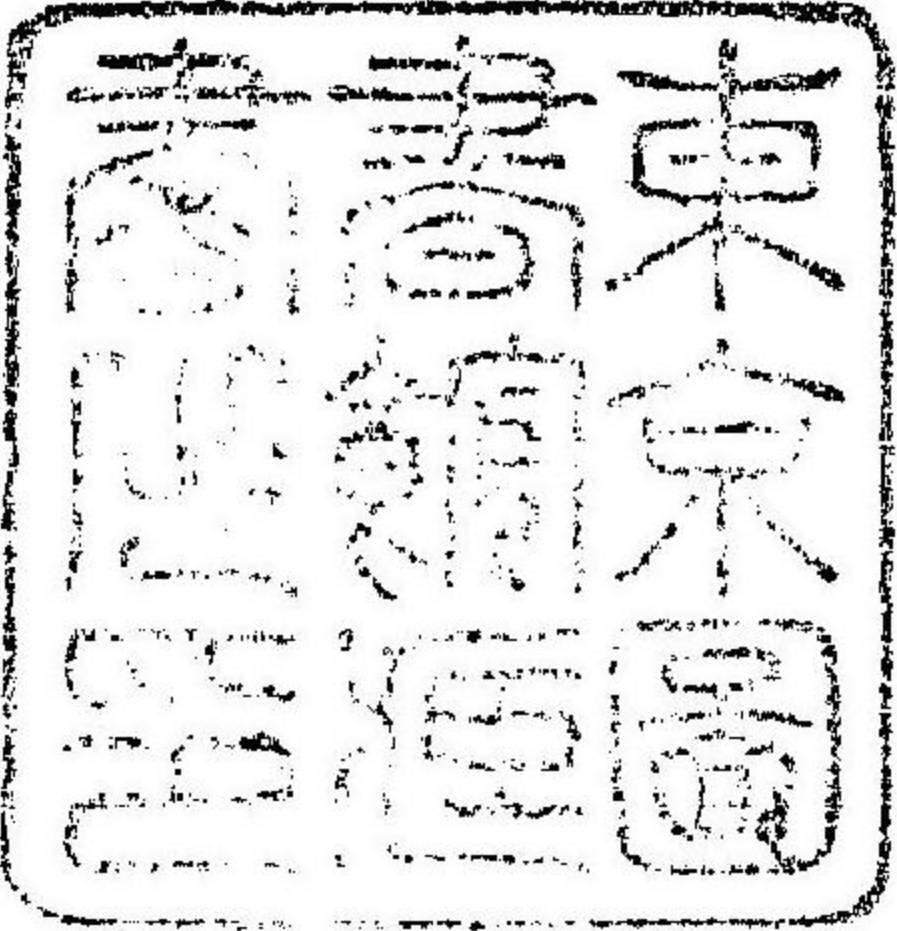
真無樓藏版



山林新說二編

緒言

余客歲山林新說ヲ著シ、樹木ノ生理、養護ノ術、生長伐採ノ度、及ビ山林ノ人生ニ功德アル所以ヲ略言ス而シテ山林ノ法方ハ一様ナラズ、地ニ燥濕肥瘠アリ、山ニ高低方向アリ、故ニ栽植伐採ノ術モ亦山林ノ形勢ヲ察シ、氣候ノ寒暖ヲ驗シ、高下濕燥ヲ視テ、其山野ニ適スルノ樹ヲ栽植シ、其山野ニ宜キノ法方ヲ施シ、最良ノ樹木ヲ蕃生スルヲ以テ此道ノ一大要旨ト



明治二十一年三月

田中芳男
片山直久
著

山林新説二編

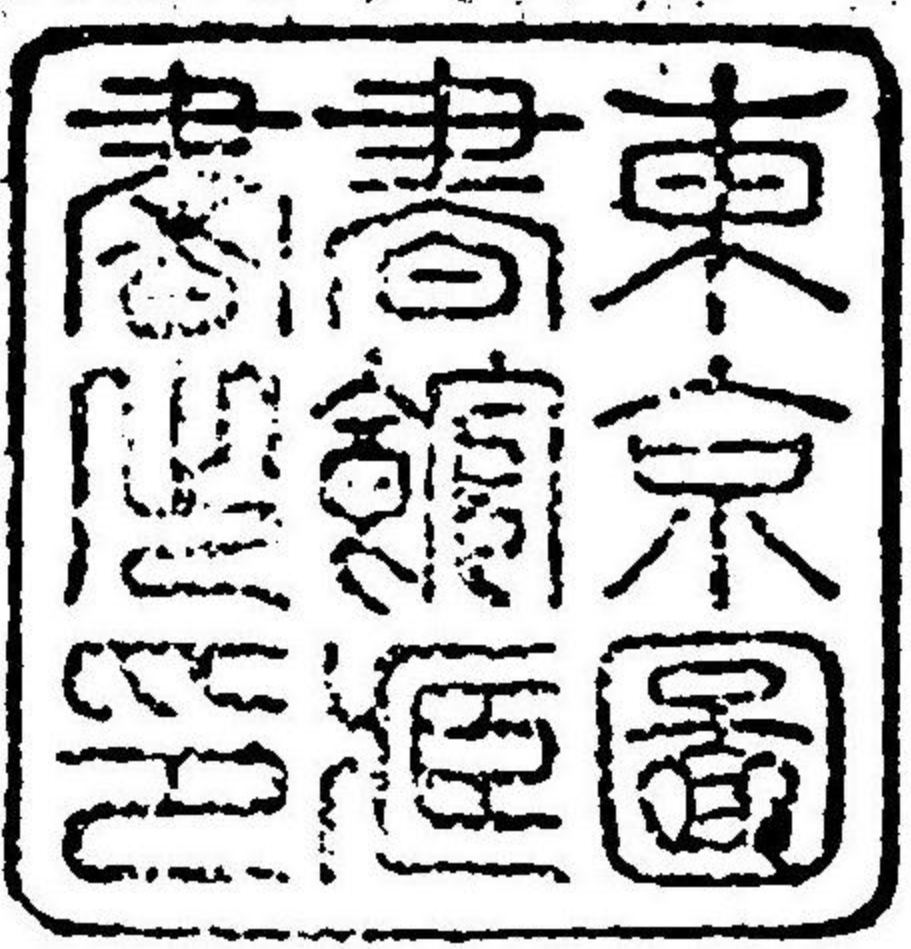
直無律



山林新説二編

緒言

余客歲山林新説ヲ著シ、樹木ノ生理、養護ノ術、生長伐採ノ度、及ビ山林ノ人生ニ功德アル所、以テ略言ス而シテ山林ノ法方ハ一様ナラス、地ニ燥濕肥瘠アリ、山ニ高低方向アリ、故ニ栽植伐採ノ術モ亦山林ノ形勢ヲ察シ、氣候ノ寒暖ヲ驗シ、高下濕燥ヲ視テ、其山野ニ適スルノ樹ヲ栽植シ、其山野ニ宜キノ法方ヲ施シ、最良ノ樹木ヲ蕃生スルヲ以テ此道ノ一大要旨ト



山林新説二編

卷之二

一

ス、嘗テ或書ヲ閱ルニ山林窮理ノ部ニ一ノ試
 験アリ、大サ中等ノ楢一本ニテ、六月ヨリ八月
 マデノ酷暑ノ時ハ、一日ニ貳千六百八十八貫
 目ノ水ヲ發散ス、此水ハ滲透力ノ作用ニ由テ
 土中ノ深キ所ヨリ根幹ヲ通過シテ枝葉ニ達
 シ、蒸氣トナツテ空中ニ散布シテ酷熱ヲ緩和
 シ、夜中ニハ凝結シテ露トナリテ百穀草木ヲ
 濡シ、遂ニ泉源ノ乾涸ヲ補フ、故ニ山林ニ樹木
 ナクンバ諸植物ノ生長力衰へ、年穀稔ラズ、百
 果熟セズ、凶旱水溢ノ害ヲ來シ、又風土氣候ノ

變轉ヲ生ズ、故ニ山林法ノ得失ハ、年ノ豊凶、人
 生ノ利害、國ノ貧富ニ大關係アルモノニシテ、
 又自今工業ノ進歩スルニ從ヒ、木材ノ需用ハ
 日一日ヨリ多シ、今ニシテ種植ト養護トニ着
 手セズンバ、木材ノ匱乏ニ困ミ悔エトモ及フ
 無キノ歎アラシク恐ル、故ニ此編檜、樺、樫、
 各地ノ山林ニ仕立ル、土地ノ適否ヨリ、栽植ノ
 數法養護ノ術、疎伐ノ方法、伐木ノ年期等、凡レ
 テ山林樹木裁伐ノ良法ヲ檜、樺、樫ノ中ニ詳
 論ス、其他各種ノ樹木モ此裁伐ノ數法ヲ以テ

其山林ノ宜ニ從テ斟酌施行セバ、各種ノ樹木
蕃生セザルナシ、嚮ニ著ス山林新説ハ猶細ノ
如ク、此二編ハ猶目ノ如シ、而シテ山林ニ属ス
ル有用ノ數件ヲ附ス、有志者前後參考シ、彼是
比較シテ、之ヲ實際ニ施行セバ、年必豊カニ、民
必利アリテ、國必富シ、豈ニ蔚林茂樹ヲ得テ材
木匱乏ノ憂ナキノミナランヤ
編中圖ヲ加ヘザレバ解シ難キ所アリト雖モ
別ニ伐木圖解ノ著アラント欲ス、故ニ編中一
ニノ略圖ヲ舉クルノミ餘ハ凡ベテ伐木圖解

ニ讓ル看者夫之ヲ諒セヨ

明治十一年 月

編者誌

凡例

山林伐木ノ法ニ數種アリ、編中一々註解ヲ加レ
バ繁雜ヲ免レズ、故ニ今其尤ナル者ヲ爰ニ撮出
シ且解説ヲ附シ、讀者ヲシテ索引ニ便ナラシム
天然適度佛語之ヲ「レシヨシエツク」ト云フ土質モ、地

ノ高サモ、樹木ノ自然生ニ適スル度ニシテ、
下種セズ、移植セズ、又培養モセズシテ、自然
ニ深林ヲ成ス所ヲ云フ、譬へバ信濃ノ木曾
山ノ如キハ、檜ノ天然適度ナリ、六七十年毎
ニ一山ノ檜ヲ悉ク伐リ、跡へ此モ人カラ加

へズシテ、自然ニ嫩木蕃生シ、檜林ヲ成ス元
ノ如シ、是等ハ檜ノ天然適度ト云フベキ地
ナリ、各種ノ樹木皆天然適度アリ、之ヲ識ル
ヲ山林家ノ要務トス

伐木年期 佛語之ヲ「エキスラワタベリナー」ト云フ、最初ノ

伐木年期ヨリ、終リノ伐木年期迄、各種ノ樹
ニ由テノ至當ノ伐木年期ヲ云フ、

撰伐法 佛語之ヲ「ジヤルジナール」又「クルター」ト云フ、

此所カシコ彼所ニテ枯木、老木、朽木、折傷木等ヲ撰
テ伐ル法ニテ、一所ニテ多クノ木ヲ伐ラズ、
クツトコロ

又少ク伐ラズ、生揃タル林中ヨリ年々同敷
ノ木ヲ撰伐スル法ナリ

側伐法 佛語之ヲ「アチール」又「エヤー」ト云フ、林中ノ樹

ヲ二側三側ツ、次第ニ伐ル法ナリ

區伐法 佛語之ヲ「クロー」ト云フ、時々林中

ノ一區域ヲ伐ル法ナリ

分伐法 佛語之ヲ「アツワール」ト云フ、山林

ヲ分ケテ伐ル法ニテ、此分伐法ノ中ニ又五
ツノ法アリ、第一ニ風ノ向ヲ考テ伐ル事第
ニニ山林ヲ害スル風ヲ防グ様ニ伐ル事第

三ニ山林ノ成リ換ハルヲ防グ様ニ伐ル事
第四ニ伐リ方ヲ極ル事第五ニ區伐法ヲ行
フ事

深蔭伐法 佛語之ヲ「クレスソングル」ト云フ暗淡伐法ノ

義ニシテ、樹木ノ稠密森々タルヲ少シク疎
シ蔭ノ十分ニアル様ニ伐ル法ニテ、譬ヘバ
種子重クシテ芽生弱キ灘ノ如キモノハ、風
吹テ動搖スル時、枝ノ端、隣木ノ枝端ト相觸
ル、程ニ伐木スベシ、之ヲ深蔭伐法ト號ス
通明伐法 佛語之ヲ「クロープレール」ト云フ苗木既ニ強

壯ニ至リ、成長必定ナルヲ見テ、十分ニ間ヲ
明ケル伐リ方ニテ、蕭蕭ノ深林ヲ疎伐シテ
大氣陽光ノ通スル様ニ伐ル法

疎伐法 佛語之ヲ「エクレルシイス」ト云フ蔚林密樹ノ

間ヲ伐疎スルヲ云フ、尤モ疎伐ノ方法ニ種
種アレドモ、林中ノ細木、惡木、及ビ不成長木
又ハ雜木ヲ伐ル事ヨリ、樹ニ由テ最初何年
ト定メ、二三四度ノ年ヲ逐テ伐ルヲモ疎伐
ト云フ

山林伐採法 佛語之ヲ「アマナージマン」ト云フ後來ノ為ニ

注意シテ、山至モ、材木ヲ費ス人モ大利益ヲ得ル様ニ伐木スル規則ヲ立ルノ謂ナリ

山林伐採見込

佛語之ヲ「プロゼアマナーシマン」ト云フ

山林圖解

佛語之ヲ「プラントアマナーシ」ト云フ山林ノ互

別及區域、樹木ノ年齢等ヲ明細ニ繪圖ニシタルモノ

山林新説二編

目次

上卷

檜ノ良材ヲ作ル事

檜ヲ疎伐スル事

檜ニ相應ノ地質

縦ノ山林ヲ仕立ル事

縦ヲ土地ニ由テ作ル事

縦ヲ惡地ニ仕立ル事

縦ヲ峻岨ノ山ニ仕立ル事

樵ヲ破山ニ仕立ル事

下卷

樵ノ説

樵ノ山林ヲ仕立ル事

樵ノ移植ノ事

樵ノ山林ヲ新ニ仕立ル事

樵ノ山林ヲ仕立ル事

樵ノ伐採期限

樵ノ山林ヲ新ニ仕立ル事

樵油ノ説

伐木ノ適度ヲ論ス

伐木ノ時繩墨ヲ巧ニスベキ事

伐木ノ季節ヲ論ス

松脂ノ採取法

落葉松ノ脂及的烈茲油採取法

杣樹皮ノ剝取法

樽材及寸法ノ事

瓦斯燒ノ法

蒸材時間ノ事

白蟻ノ説

山林新説二編上卷

片山直人編輯

檜ノ良材ヲ作ル事

本邦ニテハ宅地ノ週遭村落ノ阜丘懈間社寺ノ
 境内或ハ海面ノ地海面ノ地ト云ハ海面ヨリ續テ
 平地ナル地ヲ云フ山ノ麓迄ヲ
 凡地ト云フ面ニ從來檜杉松等ノ植付ケラ為セド
 ノ地ト云フモ薪炭及ビ小圓材ノ類ヲ伐ルニハ佳ナレドモ
 良木ヲ得ントスルニハ植方宜シカラズ各木ノ
 間ヲ疎ニシテ地味好ケレバ樹木早ク成長ス早

ク成長スレバ樹幹直長セズシテ枝四方ニ蕃衍
シテ木幹へ^{マツ}膠^ツ戻^ツヲ生ズルモノナリ、但シ周圍一
丈五尺ヨリ二丈ノ大材ハアレド、良材ヲ得ルニ
ハ遅ク成長スルヲ宜シトス、檜材ハ本邦ニテハ
貴重シテ、宮室舟車等ノ最良材トナス木ナレバ、
良木ヲ作ルヲ第一トスベシ、故ニ先ツ植付ノ良
法ヲ舉ク、檜ハ山谷へ^植ニ^種子ヲ下スハ宜カラ
ズ、先ツ苗木ヲ作り、山谷へ移シ植ルヲ可トス、然
シ本邦ニテハ、地面ノ宜シキ所へ苗木ヲ作り、荒
キ土ノ山谷へ移シ植ルハ宜シカラズ、山谷ト同

様ノ土ニ苗木ヲ作ルベシ、山谷ノ土ト同ジ土へ
苗木ヲ仕立テ、種子ハ山林ニアル大木ノ種子ヲ
蒔クベシ、民家近クニアル種子ハ宜シカラズ、山
林ノ良木ノ種子ヲ下スベシ、九州四國邊ニテハ
下種セズシテ^挿挿^法ヲ用レドモ、季候暖ナルヲ
以テ善ク根ヲ生ゼリ、此法宜シカラズ、枝ハ元ト
少シク曲リヲ帶タルモノナレバ、苗木ニハ宜シ
カラズ、但シ^補補^ハ苗木^歐歐羅巴ニテハ、外國ヨリ來
ル珍シキ木ハ、枝或ハ^補補^モ挿^セドモ、山林ニ用ユ
ベキ良法ニアラズ、檜ニハ、此法最モ宜シカラズ、

山谷ト同様ノ土へ苗木ヲ作りテ、三四年目ニ移
シ植へ、木ト木トノ間ハ成ル丈ク近クスベシ、其
距離ハ、凡ソ二尺程ニ植レバ、其間ヲ歩行スル事
モ出来テ、木ト木ト相助ケテ、良木ヲ長スベシ、一
本注ノ木ハ、大敷ノ木アル森林ノ如キ良木ハ得
ベカラズ、若シ土地燥テ悪キ地ナレバ、必ニ尺間
ニ植ベシ、地味好キ所ナラバ、四尺五寸ヨリ五尺
迄ニ植テ可ナリ、木ノ長ナル早キ所ハ、地ノ惡
シキ所ハ、樹ノ長ズル遅クシテ、其間ニ風雨ノ變
アリトモ、枝葉相接スレバ、相助ケテ折傷ノ害ヲ

免ル、地味好キ所ナレバ、樹ノ長ズル早クシテ、隣
木ト忽チ相接ス、故ニ間ヲ廣ク植ルヲ可トス、苗
木移植ノ初メハ、光線四方ヨリ直射シテ、雜草其
間ニ蕃生ス、二三年ノ後ハ、幹モ長ジ、枝葉相接シ、
光線モ枝葉ノ下ニ至ラズ、雜草ノ生ズルモ遅ク
ナリ、後遂ニ蔚林ト成ルニ至テハ、光線モ全ク到
ラズ、遂ニ樹下室内ヨリ暗クナリ、雜草モ全ク生
ゼズ、密閉シタル室内ノ如クニナリ、只苗ノミ樹
下ニ生ズル様ニナルモノナリ、此時ニハ幹ノ長
ズル早ク、木質モ順良ナリ、如何トナレバ、樹木ノ

長ズルハ、元光素ト温素ヲ第一トス、檜蕃茂スレバ、陽光モ暖氣モ、地下雜草ニ奪ハレズシテ、其所ニ來ル光温ヲ殘ラズ樹木ニ取ル故ナリ
 良質ノ材ノ成ル所以ハ木ト木ト相接シ、相支ヘテ、横ニ蔓延スル事ナク又屈曲スル事ナク又獨リ随意ニ聳立スル事ナク已ムヲ得ズシテ直長ス、故ニ木理モ緻密ナリ、又下枝ハ光素ヲ受ケザル故ニ肥大ナラザル前ニ枯レ落テ捨ラ成ニ至ラズ、此ノ如クナルヲ以テ順直無節ノ良木トナルモノナリ

檜ヲ疎伐スル事

苗木漸ク長シテ、二尺ノ距離ニテハ狭クナリ強キ木ハ早ク長シ弱キ木ハ枯ルニ至ル此ノ如ク強キ木ノニ殘ル様ニナスハ良木ヲ得ルニ最モ惡シキ事ナリ、故ニ人カヲ加ヘテ疎伐ヲナスベシ、始メ二尺間ニ植ヘタル樹、長サ五尺五六寸ニ至ラバ、疎伐ヲナスベシ、之ヲ第一ノ疎伐ト云フ、疎伐ヲナセバ、草類生ズレドモ、二三年ニシテ蕃蔚元ノ如シ、周リ五六寸ニ至ル迄、其儘置テ、又其間ヲ疎伐スル事初ノ如シ、之ヲ第二ノ疎伐ト云

山本新書 卷之二 雜考 五

左右各八尺ツ、ノ間ヲナス、草生ジ又草枯レテ
木長ズル事初ノ如シ、其後年ノ経テ、根廻リ凡ソ
三尺位ニナリタル時、小圓材ヲ取ルニハ、伐木ス
ルモ可ナレドモ、板材ヲ得ントスルニハ、第三ノ
疎伐ヲナスベシ、此時ハ、間ノ一側ヲ伐ラズ、良木
ヲ存シ、隣木ノ妨ゲヲナス樹、及ビ風折レ、泥濘ア
ル樹、幹ノ短キ木ヲ撰デ伐ルベシ、右ハ地質惡キ
山ニテ、二尺ノ植付ノ法ナリ
若シ沃_{エチ}土ニシテ、四尺五寸ヨリ五尺ノ距離ノ地
ナラバ、周リ一尺三寸ヨリ一尺五寸ニナル迄ハ

手ヲ入レズシテヨシ、長サ三丈ヨリ四丈位ニ成
長シタル時、始テ疎伐ヲ爲ス、一側置ニ伐ル前ノ
如シ、木ト木トノ間、凡ソ九尺ヨリ一丈ニナル、又
周リ三尺ヨリ三尺三四寸ニナル迄置クベシ、田
舎ノ風習ハ、下枝ヲ_{オス}伐落ス瘠アリ、甚ダ惡キ事ナ
リ、元來樹木ノ枝葉密接スレバ、下枝ハ自然ニ枯
レルモノナリ、木ト木トノ距離、遠クシテ一本生
ノ樹ノ如クナレバ、枝左右ハ蔓延ス、故ニ多ク密
ニ植レバ、_{オス}伐枝ニ及バズ、若シ枝ヲ伐レバ、幹ノ長
ズル遲クナリ、_{オス}綴令ニ羸餘ノ枝トシテ伐ルモ、又

木行九二編 卷之二 五

跡へ枝ヲ生ジテ伐タル跡ハ遂ニ乾糖ヲナシテ
 惡質トナルノ基ナリ、畢竟枝ヲ伐ルハ、薪ヲ獲ル
 為ニテ、少シノ薪ヲ獲ント欲シテ、良木ヲ惡木ト
 為ハ思ハザルノ甚キ者ト云フベシ、故ニ檜ノ良
 材ヲ獲ント欲セバ、決テ下枝ヲ伐ル可ラズ、木ノ
 為ニ用ナキ枝ハ自然ニ枯レ落テ盡ルモノナリ
 右ハ地味好キ山ニテ四尺五寸ヨリ五尺ノ植付
 ノ法ナリ

右ノ兩法ハ、人造檜林ノ法ニシテ真ノ良法ニア
 ラズ、人造ヲ須タズシテ自然ニ良材ヲ獲ル山林

ノ良法アリ之ヲ天然適度ト云フ、是レハ移植セ
 ズ肥糞セズシテ自然ニ種子散布シテ生ズルノ
 地ナリ、山林家ハ樹木ノ種類ニ由テ此天然適度
 ヲ知り得ルヲ緊要トス、本邦ニテハ、檜ノ天然適
 度ト云フハ、高サ千三百二十尺ヨリ四千六百二
 十尺ノ間ナリ、然レ此間ナラバ何國ニテモ必檜
 蕃生スルト定メ難ク、又其高サノ地ニハ必檜ア
 リトモ定メ難シ、唯此高サノ外ニハ、檜ニ適スル
 地アリト雖モ、檜蕃茂セズ、又此高サノ山ニテモ、
 檜ニ適スル地ニ非レバ、檜生ゼズ、故ニ富士山ハ、

土ナケレバ、此ノ地ニハ檜生ゼズ、故ニ花崗石ト
 粘土ト交雜シタル地質ヲ第一トス、然レ令深山ニ
 至ラズトモ河口ノ砂ヲ一見シテ花崗石ノ砂ア
 レバ、此河上ノ山ニハ、必ズ檜アルヲ知ルベシ尤
 モ砂アレバ檜アルト定メ難シ他石ノ碎タル砂
 モアルモノナレバ花崗石ノ砂ニアラザレバ能
 ハズ、檜ハ、山ノ傾斜ニ拘ラズ、如何ナル峻山ニテ
 モ生ジ、又山陰ヲ好ムモノナリ、山陽ノ地面ニハ
 當今未ダ檜アルヲ見ズ、若シ山陽ニアレバ必其
 南ヲ塞グモノアルベシ、今山陽ノ地面ニ檜ナキ

ハ、蕃殖ノ方法宜カラザレバナリ若シ植付ノ方
 宜ヲ得バ山陰ノ地ト同様ニ成ルヤ必セリ、山陽
 ハ方法惡ケレバ遂ニ盡ルガ故ニ先ツ山陰ヲ可
 ナリトス、今山陽ニ生ゼザル所ハスヲ説カン檜ノ
 種子ハ、輕クシテ、チネキカタ小毬ノ中ニ多クアリ南方ハ、夏
 ノ末、秋ノ始メニチネキカタ毬開テ風ノ爲ニ四方へ散布ス
 レドモ暑熱ノ爲ニ焦テ生ゼズ、又秋落タル種子
 冬ヲ越ユル内ニ、寒威ニ凍死シテ生ゼズ、檜ノ
 天然適地ニテハ、春末ノ頃、毬開キテ種子落ツ、漸
 芽發苗ノ時ナレバ、暖氣及ビ濕氣適度ニシテ、忍

チ種子萌生ス、北方ヲ善トスルハ春末ノ頃空氣
温暖ナルニ至リテ毡開ク、故ニ自然ニ陸續生々
シテ已ザルニ至ル、檜ノ種子ハ輕キ故ニ數里ノ
外へ散布シテ、落葉其外自然ノ肥養アル地ニ落
テ生ズ、此落葉アル地層ハ、民家ノ苗木畑ト同ジ
ケレドモ、山林ノ落葉アル地ハ、肥糞ハ用ザレド
モ自然ニ滋養分多クシテ民家ノ苗木畑ニ勝レ
リ、且種子ノ散布セル時ハ遮陽ノ其上ヲ覆フナ
ケレバ生ゼザレドモ山林ノ樹木自然ニ此ノ遮
陽ヲナスナリ、故ニ人造ノ樹藝ハ全ク天然ノ摸

擬ヲナスモノト云ベシ人造ノ樹藝ニハ遮陽ヲ
成スベシ若シ山陽ノ地ヲ残ラズ伐レバ、種子ハ
日ニ燥サレ、風ニ吹キ散サレテ、遂ニ檜ノ種属盡
ルニ至ル、山陰ノ地ハ残ラズ伐ルトモ再ビ檜林
ヲ成スモノナリ、如何トナレバ種子ノ日ニ燥サ
レル事モ尠ク、陰モアリ、保シ伐リタル初年ニハ
蔭ナキ故ニ實生セズ二三年ノ中ニハ荆棘生ジ、
遮陽ニナリ、外ヨリ種子飛來リ、濕氣ト遮陽ノル
トニ因テ成長スルナリ、唯山陰ハ悉ク伐ルトモ
五年乃至十年ノ後レアルノミ、悉ク檜ノ種属盡

山陽雜記 卷之七 雜木

ル事ナシ、山陽ハ之ニ反シテ、種屬盡ルニ至ル、故
ニ山陽ノ地ニ檜ヲ蕃殖セシメント欲セバ、先ッ
雜木ヲ切ニ刈ル可ラズ、雜木ハ自然ニ生ジテ蔭
ヲ為シ、山ニ濕氣ヲ含マシメ、良木ノ茁芽ニ難キ
モノ、助ヲナスモノナリ、今夫レ雜草ハ最モ下
等ノ植物ナレドモ、生力強クシテ如何ナル土ニ
モ生ジ、上等樹木ノ助ヲ為ス、故ニ雜草雜木良木
自然互ニ相助ケテ、生タスルモノナレバ、固ヨリ
無用ノ植物ナシト知ルベシ、俾シ天工自然ノ妙
手段アリト雖モ、人之ヲ害スル事數回ナレバ、雜

木ノミ生ジ、遂ニ荒蕪ノ地トナルニ至ル事多シ、
本邦ハ天然ノ助ヲ害セシ故ニ山陽ノ地ニハ檜
其他ノ雜木ハ生スレドモ良木ハ既ニ生ゼザル
ニ至レリ
本邦ニテ檜ニ適シタル所ハ飛驒川ト木曾川ノ
上流ニアル山ナリ、此山ハ本邦中、檜山百分ノ四
十二アルベシ、美濃ハ百分ノ十七、陸前ハ百分ノ
三十、信濃飛驒川ト木曾川ノ上ハ百分ノ三、近江
ハ百分ノ三、陸中ハ百分ノ三、紀伊ト他ノ國ト合
セテ百分ノ二アルベシ、是ハ充分確實ナラザレ

山林新説二編 卷之七 十 眞無樓藏版

ドモ先ツ其大概ナリ此中良材ハ、飛驒川木曾川
ノ上ニシテ、此地ハ檜ノ成長ニ第一等ノ地ナリ、
陸前ハ木小ナリ、是ハ伐リ出シ方惡シキカ、地質
適當セザルカ、山ノ高サ相應セザルナルベシ、陸
中ハ信濃ヨリ少シ惡シトス、紀伊ハ最良木ナラ
ズ、然シ紀伊ノ檜山ハ本邦中デハ手入レハ宜シ
高野山ニモ檜ノ大木アレドモ、良材ナラズ、梶
多シ、此山ハ檜ノ生マルヲ得ル地ナレドモ、萬事
適當トハ云ヒ難シ、若シ高野山ノ僧侶輩、檜山ニ
注意セザレバ、遂ニハ檜盡ルニ至ルベシ、檜ヲ最

美ニ蕃殖セシメントナラバ、木曾飛驒兩川上ノ
山ニ在ル檜ニ着手スルヲ益アリトス、是レハ本
邦山林家ノ大ニ着意スベキ所ナリ、如何トナレ
バ、檜多ク生ジテ良材成レバナリ、此事業ニ未ダ
熟セズハ、先ツ良好ノ地ニ於テ着手スルヲ可ト
ス、其仕方ハ、如何シテ可ナラント云ヘバ、當時
樵其外諸木北向ノ地ニ交雜シテ生シ、五十本中
ニ檜一本ノ割合ニシテ、其内ニハ老木嫩木其他
種々混清シテ居ルハ甚ダ惡キ事ナリ、故ニ之ヲ
好良ノ山林ニ為スニハ、其山ヲ殘ラズ檜ノ三ニ

シテ、羊齡ヲ同一ニシ、村落ノ仕立林ト同様ニス
 ベシ、山陰ノ地、其通りニ成タル後ハ、山陽ノ地モ
 同様ニスベシ、注意シテ手入レヲスレバ、山陽ノ
 地モ山陰ノ地ト同ジ様ニナルモノナレバ、先ツ
 北向ノ地ヨリ着手スベシ、其着手ニハ、一旦悉ク
 伐採シテ村落ノ仕立林ノ如ク植付ヲ為スベシ、
 是レハ良法ニアラズ、元高山ハ平原程ヨクハ
 費モ多ク手数敷モ多シ、
 ナシ冬ハ始終雪アリテ、時トシテハ積雪一時ニ
 層零落ル事アリテ、植付タル小苗木ハ引キ抜カ
 レ、落葉其外肥養物モ押流サル、
 綴令雪ノ害ナキ

モ、山ノ高キ所ハ、風必ズ強ク吹キ荒シ、平地ト違
 ヒ早リ久シク續ケバ苗木モ早ク枯レ、春ノ不時
 ノ霜ニモ逢ヒ易シ、故ニ檜山ヘ一時ニ檜ヲ植付
 ント思フハ惡シ、何レノ地ニテモ先ツ山林培養法
 ヲ用ルヲ可トス、同種ノ木ヲ殖ントスルニハ其
 木ノ妨ダラナスベキモノヲ防グベシ、其法ハ、先
 ツ伐リ出ス時ノ注意第一ナリ、其法三アリ、一ハ
 殖サント思フ種木ノ蕃殖シ易キ様ニ伐ルベシ
 一ハ掃除伐リ、一ハ下種、此ノ三法ハ山林ノ法ナ
 リ、信濃邊ハ、最適宜ノ地ナリ近所ニ種子多ケレ

山林新説二編 卷之上 上 真無積藏册

山林新説 二編 卷之七 一頁 杉林雜木

バナリ、通例母樹ヲ殘シテ伐ルヲ可トスレドモ
土地ニ由テハ母樹ヲ殘サズシテ悉ク伐リテ可
ナリ、其近邊ノ高山ニ檜林アレバ、風ニ由テ種子
散布スレバナリ、種子來ルハ易ケレドモ、只大切
ナルハ種子ノ發生ノ適宜スルヲ肝要トス、其適
宜スル為ニハ落葉ノ地上ニ存スル様ニシ、日陰
ノ多クアル様ニシ、又殖ント思フ樹ノ他ヲ悉ク
伐ルヲ可トスレドモ、新木ノ芽苗ノ陰ニナルベ
キダケノ木ヲ存スベシ、其陰ニナル木ハ、雪層零
ノ防ニモナルモノナリ、然シ此ノ如ク為ス時ハ、

檜ノミナラス、他木モ共ニ成長ス、他木ノ蕃生ヲ
防グニハ、先ツ他木ヨリ伐リ始ムベシ、較長シタ
ル後ハ、稠密ノ母樹ヲモ伐ルヘシ、人間ノ張ニナ
ラバ、他木ノ殘リタルヲモ、伐ルベシ、先ツ始メハ
種々ノ交リタル樹ノ林成ル、然シ蒨蒨シタル林
ニナリ、年齢モ同シ林ニナル、前ニ云フ如ク、五六
尺ノ樹ニナリ、疎伐ヲスル時節來ラバ先ツ雜木
ヲ伐ルベシ、此ノ第一ノ疎伐ニテハ未ダ雜木殘
ル、第二ノ疎伐ノ後ニハ雜木悉ク盡テ、檜ノミノ
山トナル、大低伐リ出シテ、好時ニナレバ、其山ノ

山林新説 二編 卷之七 十三 頁 杉林雜木

形状改リ、他木ナクシテ、後ハ永代ノ檜山トナル
 ナリ、故ニ始メヨリ雜木ヲ伐ルハ惡シ、檜山ヲ作
 ルニハ、先ツ最初雜木山ヲ作ルベシ、雜木ノ助カ
 ニ由ニ、檜山ヲ作ルベシ、渾テ南向ノ地ニハ、此ノ
 法ヲ用ユベシ、此事ハ談話ニスルハ易ケレドモ
 實地ニ施スハ難シ、嶮岨ノ山ハ猶更難シ、檜ノミ
 ナラズ、地質ヲ鑑定シテ如何ナル樹ヲ存置スル
 ヲ、有用ニシテ利益アルヤモ考フベシ、又如何ナ
 ル木ヲ殘セバ、日陰ニナリ、後ノ為ニ宜シキヤモ
 考ヘ、此山ハ何本伐リ出シ、何本殘スベキヤヲ視

定スベシ、山ノ上ヨリ伐ルヲ可トスルヤ、山ノ下
 ヨリ伐ルヲ可トスルヤ、風上ヨリ伐ルヤ、風下ヨ
 リ伐ルヤ、下草ヲ存スルヤ、刈ルベキヤ、伐リ株ヲ
 存スベキヤ、否ヤ、其地ニ由テノ見計ヒ肝要ナリ

縦ノ山林ヲ仕立ル事

椴ノ外皮ハ帶白色ニシテ樹ノ幼ナル時ハ外皮
 滑澤ニシテ美ナレドモ老木ニナレバ割レテ凸
 凹粗糙ニシテ鱗狀ヲナス、枝ハ常ニ横ニ平ニ對
 生シテ車輪狀ヲ為セドモ、悉ク存セズシテ兩三
 箇存シテ、餘ハ枯落ス、若シ枝枯レズシテ悉ク存

セバ、大中小車ヲ順ニ重ルガ如クナラン、然ルニ
 枝悉ク存セス、故ニ敗車ヲ積ムガ如シ、椀ノ全形
 ハ圓錐形ヲナス、小枝ハ水平ニ對生ス、然シ小枝
 ヲリ細枝ヲ出スハ稀ナリ、葉ハ細枝ニ對生シテ
 二行ニ生ジテ櫛齒ヲ此ルガ如ク、細枝ニ葉々密
 接シテ自然車輪狀ヲナシテ陽光ノ透ラヌ様ニ
 成ルモノナリ、葉ハ毎年落チズ、七年目毎ニ古葉
 落ル、陽光ノ樹幹ニ到ルヲ防グト新生ノ嫩葉密
 接スルニ至ルマデ七年間存スルハ、椀ノ天然ノ
 注意ナリ、又大枝ニアル葉間ノ廣キ、枝ノ長大

ナル故ナリ、小枝ノ葉々密接スルハ、陽光ヲ防グ
 天工ノ妙手段ナリ、通常ノ樹ハ枝折レ等アレバ
 陽光木幹へ直射スレドモ、椀ハ平ニ枝密接スル
 故ニ横ヨリ陽光ハ到レドモ、縦令枝折レアルモ
 上或ハ斜線ヨリ陽光ノ直射スル事ナシ、故ニ椀
 ノ下ニハ雜木亂草モ生ゼズ、一本立ニテモ下草
 ナシ、故ニ數百本ノ森林ナラバ林中何モ生ゼズ、
 椀ハ好風景ノ山林ノ成ルモノナリ、椀ノ嫩葉ハ
 生力強シ、故ニ葉ノ末端尖突ス、老木ハ生力弱シ、
 故ニ圓形ヲナス、先年「イボ」氏長崎ニ來リシ時曰

本ノ縦ヲ二種アルトシ、一ヲ嫩木カボトシトシ、一ヲ老木カボトシトシタレドモ、カボトシ氏ノ届イタガルニアラズ、必ズ崎陽人ノ誤リヲ傳ルナラン、全ク老木ト嫩木トノ差ヒナリ、縦ノ實ハ十月ノ始メニ熟スレドモ、然シ土地ニヨリ少ク早晚アリ、故ニソノ國ニ依テ何項熟スルヲ注意シテ收カボトシ種スベシ、收種ノ期ハ熟スルカ熟セザルカノ時ニ收ベシ、晚ク收レバ種ノ性惡クナル、縦ノカボトシ他木ト異ニシテ、カボトシ密接スル故ニ関ケバカボトシノ數片落テ、雨水鱗毬中ニ入ル、毬片ノ地ニ落チタルハ可ナレド

モ、枝上ニアル鱗毬ハ、雨水ノ入ル恐レアリ、種ノ收ルニハ、草間樹下ノ毬片ヲ一々拾フ能ハズ、故ニ枝ニアル毬ヲ收ムベシ、早ク收ムルヲヨシトス、縦ハ根ノ蔓延スルモノナリ、命根始メ三尺許土中ニ入り横根ハ四方ニ蔓延ス、故ニ烈風ニモ轉覆スル稀レナリ、縦ノ横根ノ護ルモ自然ノ良性ニシテ、縦ハ山嶺ニ生スル樹ナレバ、若シ横根ノ蔓ル良性ナケレバ屢轉倒スベシ、他木ノ性ニハ時候ノ不順ニ堪ル樹モアレドモ、縦ノ如ク蔓ル性質ナキ故ニ山嶺ニ生ゼズ、縦ノ山嶺ニ生ス

ルハ全ク横根ノ蔓ル良性ニ由テナリ、又岩石上ニ生ズル時ハ横根廣ク蔓延シ岩ノ隙アレバ細根入りテ養分ヲ吸收シテ生長ス、其始メ細根ノ其隙ニ入りタル時ハ養液ヲ吸フ勢ケレドモ根管追々隙中ニ肥長シテ隙ヲ大キクシ、雨水外ヨリ肥養土ヲ送り來リテ長養ス、根ハ横ニ延ル性^{コシツチ}ノル故ニ、如何ナル山ノ斜面ニモ生ジテ季候ニハ少シモ關係セズ、北海道ヨリ九州ノ邊隅^テマデ生ズレドモ、寒國ヨリ暖國ノ樹ハ早ク長ズ、尤モ九州邊ノ峻嶺^{タカキミネ}ニ生ズルヨリ、北海道ノ海面

ノ高サニ生ズル樅ハ早ク長大ニナル、海面ヨリ同ジ高サヲ以テ云フ時ハ寒國ヨリ暖國ヲ長ジ易シトス、南向ヨリ北向ヲ可トス、南向ハ陽光直射シテ地ヲ燥ス早魃ノ恐レアレバナリ、北向ノ地ハ然ラズ、九州地ハ山ノ南北ニ由テ陽光熱ノ當リ方ノ異ナルヨリ、北海道ノ南北ハ大ニ異ナルナリ、北海道ハ陽光横射ス、九州地ハ斜射ス、故ニ南北ノ差勢シ、赤道ニ至レバ山ノ南北ノ差ナシ、山林家ハ緯度ニ由テ山ノ南北ト高下トヲ審ニスベキハ論ヲ俟ス、再三向ノ事ヲ談ズレドモ、

第一樞要ノモノナレバナリ、尤モ北地ヨリ南ニ
 至ル程、向ノ關係尠クナルモノトス、樅ハ山嶺ヲ
 好シテ寒威ヲ怖レズ、嫩葉モ樹脂アリテ寒威ニ
 感ゼズ、小條細枝ハ雪積ラズ、大枝ハ雪ニ堪ル様
 ニ柔韌ニ成テ多ク積レバ其雪瀕落ル、樹ハ圓錐
 形ナリ故ニ雪多ク積ラズ、積ルモ總體ニテ維持
 ス故ニ折レズ、又新芽ヲ保全スル為メニ脂ノ膜
 ノ如キモノ幾重モアリテ暖氣到レバ自ラ開テ
 新葉生ズ、皆自然ノ妙用ナリ、樅ニ適スル高サハ
 九州邊ハ海面ヨリ千九百八十尺以上、北向ニテ

モ九百九十尺以上ヲ適度トス、九百九十尺以下
 ハ枝多ク延ビテ木質惡シ、駿、速、相、武邊ニテモ九
 百九十尺以上ナリ、此高サハ平均ノ高サナリ、故
 ニ南向ハ高ク北向ハ低クトモ可ナリト知ルベ
 シ、駿、速、相、武邊ニテモ四千六百二十尺ノ高サヲ
 極點トス、九州邊ノ山ニモ峻嶺アリ故ニ生ゼザ
 ル所ナカルベシ、北海道ハ四千六百二十尺以下
 ヲ極點トス、就中北向ハ最モ以下ナルベシ、其地
 ニヨリ高下ノ定リアレドモ、作レバ阿所ニモ成
 ルモノナリ、地ハ常ニ濕リテ根ノ入り易キ地ヲ

良トス、土質ハ種々ノ混合物アルニ關セズ、只純
砂ノ地ハ可ナラズ、又沮洳シタル地ハ好マズ、概
ハ土質ヲ擇マズ、又地ノ深淺ヲ論ゼス、岩上ニテ
モ割レ目多ケレバヨシ、焚石山ノ近邊ニテモ生
ズ、但乾燥ノ地ハ好マズ、根匍匐スル故ニ乾枯シ
易ケレバナリ、歐羅巴ニテハ數里ノ間、概ノ山全
ク枯ル、ハ旱魃ニヨルユヘナリ、高山ニテモ雨
霧ノ多キ所ハ可ナレトモ、平地ニテモ旱魃ニハ
枯ル事アリ、本邦ハ降雨多キ國ナレバ是等ノ恐
レナシ、南向ニハ時トシテハ恐レアレドモ北向

山林新説二編 卷之七 頁九

ニハ恐レナシ、然シ旱魃モ小木ハ根モ小ナル故
ニ枯レ易ケレドモ大木ハ根モ大ク延ル故ニ枯
レズ、概ハ何所ニテモ生スレドモ、嫩木ハ諱ヲ恐
レ又寒ヲ恐レ凡ベテ大木程ノ防キナシ、根モ氷
箒ニ噴起セラレテ土ト相離ル、故ニ早ト凍トヲ
防ク為ノニ護霜遮陽シテ保護スベシ、壯木ニ成
ルニ及デハ寒暑モ恐レズ追々長大ニナレドモ、
嫩木ハ發育遅クシテ養ヒ難シ、概ハ最初程發育
遅シ、七年ニシテ凡ソ長サ一尺許ニナリ、十年ニ
シテ三尺餘ニナルベシ、此年間ヲ即十最モ養ヒ

山林新説二編 卷之七 頁九

難シトス、三尺以上ニナレバ成長漸ク早ク、毎年
車輪狀ノ新枝生ズ、故ニ其車輪狀ヲ數ヘテ木ノ
年齢ヲ知ルベシ、最初車輪狀ヲナスハ五年目ナ
リ故ニ樹壽ヲ數ルニハ、車輪狀ヲ算シテ五年ヲ
加フベシ、尤モ老木ニナレバ數ヘ難ケレド、モ實
地ニ明カナル山林家ハ、樅ノ車輪狀ノ枝ヲ數ヘ
テ其餘ノ年ヲ知ル、佛國ニテハ七年ノ後チ纒一
尺ニ長ズルト云フ、二十年ニシテ周圍一尺二寸、
四十年ニシテ一尺三寸餘、五十年ニシテ五尺六
十年ニシテ八尺五寸、七十五年ニシテ十二尺二

寸、百年ニシテ十三尺二寸ノ周圍ニナル、上等ノ
樅ト云フハ、地ヨリ枝下迄長サ五尺六尺以上ニ
テ一モ^{モト}_{モト} 柅^{モト} 掃^{モト} モナクシテ真直ナルヲ良トス、徑ハ
下ヨリ上ニ至ルニ從ヒ、漸ク細クナル、是ヲ七十
ニ割レバ、二尺五寸毎ニ三分五厘ノ減アルベシ、
本邦ハ樅成長シ易シ、地質ノ適シタル所ニ生ジ
タル樅ハ周圍三十尺以上ニ至ルベシ然レドモ
仕立方惡シケレバ此割合ニナラズ、二百年ヨリ
二百五十年ノ樅ハ直径八尺ヨリ十尺ニナリ、根
週二十三四尺ヨリ三十尺ニ至ル、歐羅巴ノ樅ハ

斯ノ如クナル能ハズ、本邦ニテハ能ク注意セズ
シテ斯ノ如ク長大ニ至ルハ温度ト濕氣ノ多キ
故ナリ、樅ハ隣木ト接近スレバ根管相交錯シテ
時トシテハ奇ナル事アリ、樅ヲ伐リタル株ヨリ
新芽生ジテ肉ノ膨脹スル事アルモノハ、隣木ノ
根ヨリ養汁ヲ送レバナリ、故ニ樹頭折レタル時
モ、再ビ樹頭ヲ生ジ易シ然レ一旦折レタルハ惡
木ト定メテ可ナリ、嫩木ハ折レテ補ヒ易シ、老木
ハ樹頭折レタルハ肉生ズル遅ク全ク外皮捲掩
シテ元ニ復スルマデニハ腐木心ニハル、故ニ一

細折レタルハ惡木トシテ可ナリ、樅ハ木種下等
ナレドモ杉ノ代用ヲ爲スベシ、新層ヲ去レバ隨
分保チ方宜シ、故ニ歐羅巴ノ如ク山ニテ直ニ挽
割リ舊層ノモヲ都府へ出スベシ、材木ハ元運賃
ノ掛ルト掛ラザルトニ由テ價ノ高下アルモノ
ナレバ、山ニテ舊層ヲ挽立テ上板ヲ出セバ價廉
クシテ保チニモ宜シ、杉ノ代用ヲナス材ナレバ
使用ハ極テ多シ、其益ヲ舉レバ他木ノ生ゼザル
惡地ニテモ生シ山林モ減易ク、只伐採ト運搬ノ
費用ノミナリ、大低都府ニハ大河アリ、其大河ノ

山林新説 二編 卷之二 世 其 無 量 山 林 新 説

近傍ノ丘陵平原へ植付ケテ宜シ、輕材ナレバ川出シニ便ナルノ地ナラバ河ノ源へ作ルモ宜シ、都府へ通シタル河上ノ樅ニ適シタル地ヲ擇ミテ植付ルヲ最益アリトス、本邦ニテハ河ノ溢ル所大井川如キアルハ元山林ナキ故ナレバ、此川上ニ樅ノ山林ヲ作ルヲ當今ノ急務トス、坂冷材木ノ賣利ナクモ、洪水ヲ防グニ足ル、故ニ公益尠カラザルベシ、川上ハ極速クシテ深山ナレバ材木ヲ出スニハ難クトモ亦益アリ、材木ヲ出スニ難キ所ニテハ「テレ」コパン」及ビ「サラ」

ヲ山ニテ取テ輸出セバ、木ハ賣ラストモ此益僅少ナラス、歐羅巴ハ木ニテ賣ル、魯西亞ハ川出シカ悉シ、故ニ「サラ」ヲ製シテ賣利ヲ得ル尠ナカラズ、歐羅巴ニテハ「テレ」コパン」ヲ多ク取り、「サラ」ハ僅製スル所アレドモ多クハ取ラズ、樅ノ皮ハ焚テ火力強シ木ハ良焰アリテ美ナレドモ火氣弱シ、樅ト樅トヲ焚テ熱度ヲ比較スルニ樅ハ十五、樅ハ十一ナリ、然シ炭ニシテ焚ケバ同ジ熱度ナリ、故ニ鍛冶屋ノ大火爐ニ使フベシ

樅ヲ土地ニ由テ作ル事

樅ノ作り方ハ土地ニ由テ異ナリ、故ニ其土地ノ
 肥瘠ニ由テノ作り方ヲ示サン、第一ハ他木ノ咬
 雜ナキ樅バカ而カ肥ノ山林ヲ平原へ最美ニ作ル事、土
 質ノ肥瘠、寒暖ノ適否ヲ注意スベシ、第二ハ土地
 ノ高キ所、及ビ嶮山ニ作ル事、第三ハ土地ノ惡キ
 所、今迄ハダ岐山カ荆棘ラ蒸蕪オシノ地等ニ作ル事、第一樅
 ノ山林ハダ鬱稠オシ密シテ他木ノ交雜ナク、木ノ年
 老同ジク、最美ニ繁茂シタルハ、人々望ム所ノ最
 上ノ山林ナリ、此山林ニ人ノ望ミニ飽ク様ニ樅
 ヲ作ルニハ、最初ノ伐木年期ハ何年ニシテ行フ

ベキヤヲ考定スベキ事、及ビ伐木年期法ノ内何
 レノ法可ナルヤヲ考ヘテ行フベシ、一山ノ内一
 般ノ法ハ行ヒ難シ、先ツ六十年ヨリ百年マデヲ
 平均スルニハ七十五年ヲ伐木年期ニ適スルハ
 時トス、歐羅巴ニテハ久シク木ヲ存置スレドモ
 本邦ニテハ此法ニシテ宜シ、又如何ナル伐採法
 ヲ用テ可ナルヤ、撰伐ノ法ヲ施スヲ可トスルヤ
 否ヤ、山林ニテモ、村落ニテモ、撰伐ノ法ヲ行ヘバ、
 隣國ヨリ木材ヲ買入レズレテ足レリ、村々ニ小
 山林アルノミニテ材木ノ乏シキ所ハ尚更此法

ヲ行フベシ、村ニ木材充分ナレバ常ノ法ニテヨ
シ、側伐法ハ樅ニハ行フベカラズ、區伐ノ法ハ何
レノ木種ニテモ行フベキ法ナレドモ、樅ニ最可
ナリ、分伐法ヲ行フベシ分伐法中ニ又五ノ法ア
リ、第一風ノ向ヲ考ヘテ伐ル事、第二ニ風ノ山林
ヲ荒スヲ防グ様ニ伐ル事、第三山林ノ出来易ル
事ヲ防グ様ニ伐ル事、第四伐リ方ヲ極ル事、第五
區伐法ヲ行フ事、樅ノ山林ニハ先ツ伐木年期ト
山林圖解ト、區伐トノ三法ヲ定メテ、木ノ成長ノ
度ヲ考ヘテ伐ルベシ、唯悉ク伐リ盡ス可ラズ、悉

ク伐レハ種子ノ散布スルモ蔭ニナル木ナケレ
バナリ、山林ニ残スベキ種子ハ朽腐箇所ナキ無
病ノ壯木ニシテ枝多キカ曲リアル木ヲ残スベ
シ、木ノ残シ方ハ、木ノ枝端ヨリ隣木ノ枝端マデ
六七尺許ノ間ニナル様ニスベシ、同ジ坪ノ地ニ
テモ大木ナレバ少シ残シ小木ナレバ多ク残ス
ベシ、先ツ七十五年ノ樅ヲ伐ルトスレバ、一町歩
ニ二百五十本ノ種木ヲ残ス、コレモ六七尺ノ間
ニシテ、八十年ヨリ九十年ナラバ凡百八十本カ
二百本位残シテ可ナルベシ、此ノ残ス數ハ大略

ヲ示ス、山林ニ由テノ見計ヒ緊要ナリ、深蔭伐法
ヲ行ヒ、木ノ間六七尺ナレバ種子ノ散布シテ蔭
モ十分ニアリテ苗木生ズベシ、種子ハ毎年熟セ
ズ、故ニ十月頃ニ伐木シテ稔ル年ナラバ伐出シ
ニ山ヲ荒ストモ却テ翌年苗木多ク生ズ、稔ラザ
ル年ニ伐木スル時ハ用心セザレバ翌年苗木生
セズ、苗木ヲ生ス為ニ施ス法ハ、小枝類ヲ多ク束
ネテ地上ヲ掣スレバ地上、莖テ實生發シ易シ、地
ハ耕シテ軟膨スベカラズ、軟膨ニスレバ種子ハ
霜ニ噴起セラレテ生セズ、地ハ堅キヲ可トス、實

生シテ三年木ニナルマデハ、母樹ヲ存スベシ、然
シ下枝ヲ伐少シ、翊キ様ニスベシ、三年過バ木少
シク長シ、陽光入用ナレバ半分伐ルベシ、此時ニ
嫩木倒ル故ニ注意シ、仕方多クアレドモ根ヲ伐
ルノ注意ハ、枝ヲ段々ニ伐テ地ヲ荒サヌ様ニ注
意スルカ、又ハ雪中ニ伐ルヲ可トス、伐タル枝幹
ハ早ク片付ルヲ可トス、雪ノ消ヘタル後嫩苗木
ノ上ヲ木ヲ轉サヌ様ニスベシ、残り半分ヲ伐ル
ハ、佛國ニテハ七年ナレドモ、本邦ハ六年位ニテ
苗木八寸ヨリ一尺五六寸ニナレバ後ノ木ヲ伐

テ可ナリ、初メ行フ伐リ方ヲ通明伐法ト云フ、多クハ雪中ニ伐ル人ニヨリ毎年少シツ、伐テ漸次ニ明ヲ與フル法アレドモ、毎年山林ニ入テ踏荒ハ宜カラス、枝ヲ伐ルハ毎年雪中ニ行ヘバ可ナリ、トナリ通明伐法ヲ行ヒタル後ハ畜類ノ入ルヲ防グベシ、牛馬羊一日入レバ山林ヲ荒ス事甚シキモノナリ、苗木ハ密接シテ困ム迄ニ至ルニハ、歐羅巴ニテハ二三十年ニテ困ム様ニナリ、本邦ハ樹木ノ成長早シ、八十年ニシテ伐木スル見込ノ山ナラバ二十年ニシテ明伐ヲ為スベシ、トナリ太キ木

ニテ根周五寸ノ木ニナレバ明伐ヲ行フテ可ナリ、本邦ニテハ少シ早クシテ害ナレ一町歩ニ付テノ伐木ノ仕方ハ、始メ明伐ノ時八九ソ四千五百本ヨリ五千本ノ樵ヲ残シテ餘ハ悉ク伐ルベシ、八十年ニシテ伐ル樵ナラバ、二十年目毎ニ疎伐スベシ、二度目ノ疎伐ニハ千八百本ヲ存シテ其餘ヲ伐ルベシ、六十年目ニハ九百本、八十年目ニハ二百五十本ヲ母樹ニ残スベシ、百年マデ置ク木ナラバ四百本ヲ存スベシ、此數大凡ナレバ尚實地ノ見計ニ肝要ナリ、二十年目ノ疎伐ハ、カサ風

山林新説二編 卷之七 山林新説

折其他傷ノアル木ヲ擇テ伐ルベシ、殘ス木ハ常ニ良好ノ大木ヲ存シ、母樹ニハ曲リアルモ無病ノ木ヲ存スベキ事前ニ説タル如シ

縦ヲ惡地ニ仕立ル事 *Wood*

縦ヲ惡地ニ作レバ其成長遅クナルヲ以テ前條ニ云フ如ク疎伐ヲ為セバ山林繁蔚スル能ハズ、又八十年許ニテハ用ニ供スベカラズ、沃土ノ如ク手入ヲシテハ椴材ハ成就セズ、元來縦ノ伐採ノ度ハ、八十年ヨリ百年以上ナレドモ、地質極メテ瘠薄ニシテ割レ多クナケレバ他木即チ松ソ

ノ他横根ノ延ル樹ヲ植ルヲ可トス、若シ百年ヲ適度トセバ、疎伐ハ二十五年目ヲ可トス、然シ縦ノ伐採ハ何年目ヲ適度ト云フ事ハ、地質ト時候トニ由ル故ニ席上ニテハ定メ難キ事ナリ、其適度ノ見計ハ山林法ノ本旨ナリ、山林法施行ノ時ハ木ノ年齢ノ適度ヲ定マル事肝要ナリ

縦ヲ峻岨ノ山ニ仕立ル事

縦ハ危嶮急岨ノ山ニ非ザレバ略前條、仕立方ト同シ、若シ山高ク崖急ナレバ、ニツノ注意スベキ事アリ、高山ハ海面ヲ去ル遠クシテ寒ク木ノ

山林新説二編 卷之七 山林新説

成長遅シ、歐羅巴ニテハ百年ヨリ百五十年ヲ經
過セザレバ伐採ノ適度ニ至ラズ、伐出シノ適度
ヲ知ルハ、學術ト實地經驗トニテ識リ得ル事ナ
レドモ、寒サノ強キハ伐木ノ適度後ル、迄ニテ
作り方ニハ變リタル事ナシ、只前ニ説ク所ノ平
地ノ法ト勢ト異ニセザル可ラザル事ヲ論ゼン、
高山ハ烈風多ク吹ク所ナリ、然ニ樅ハ大抵ノ風
ニハ根拔ニナラズ、然レドモ葉ノ密シタル木ナ
レバ枝ノ折ル事アリ、就中雪ノ多ク降ル時ハ枝
ニ積テ早ク折レ易シ、且ツ高山ノ木ハ平原ノ木

ノ如ク並立シテ互ヒニ維持スル事ナリシテ、
階ヲナシ一本注ノ木ト同ジ、種子モ散布シテ風
ノ爲ニ遠ク飄揚シテ自然生ノ苗木モ生ジ難ク、
又苗木ヲ移植シテモ風ニ吹倒サレテ成長シ難
シ、故ニ高山ニハ樅ノ山林ハ成リ難ク、レドモ只
之レヲ仕立ルハ人々ノ注意ノ仕様ニ由テ良好
ニ作ル事ヲ得ベシ、先ヅ高山斜狀ノ所ニ作ルニ
ハ、始メ樅ノ蔭ニナリテ始終樅ノ助ケニナル木
ヲ共ニ作ルベシ、樅ノ助ケニナル木ハ樅ナリ、樅
ト樅トハ生々ノ趣略類似シタル所モアレバ、樅

山林新説 卷之七
二宜キ地ニハ樵ニモ亦可ナリ、樵ノ手當方ハ、凡
テ樵ト同様ニシテ宜シ、故ニ二種同所ニ植ルヲ
可ナリトス、樵ハ風ニ堪ル強ク、瀟ノ廣ガル性アリ、
樵ハ圓錐形ニ生ズル性アリ、故ニ二種ヲ同所
ニ植レバ、各其天然ノ本性ヲ遂グルヲ得テ、風氣
モ其間ヲ流通シテ、樵ハ樵ト樵トノ隙ヲ塞ク、故
ニ相維持シテ烈風ニモ倒レズ、樵ハ樵ヨリ長ク
ナルモノナレドモ、二種各幼ナル時ハ、樵ハ早ク
成長ス、尤モ樵ヲ存スルハ風ノ防キノミナレバ
多ク存スルヲ要セズ、只樵ノ山林ヲ仕立ル爲ノ

手當ニ樵ヲ存スルト思フベシ、故ニ樵ヲ伐ルモ
樵ト同時ニ伐テ可ナレドモ、樵ヲ丁寧ニ伐テ、樵
ハ次ニスベシ、樵ハ峻岨ノ山ニハ生ジ難シ、苗木
モ長シ難シト云フハ畢竟風ノ防キテキ故ナリ、
樵ヲ植レバ風ノ防ギニナル故ニ如何ナル峻山
ニモ樵ノ山林ヲ仕立テ得ベシ、峻山ノ樵ハ疎伐
ヲ少シク為スベシ、多ク疎伐ヲ爲セハ風之ヲ倒
スノ患アリ、少シク疎セバ風ニ倒ルノ虞ナン、樵
ハ初メ早ク長シテ樵ヲ覆フ、故ニ風當リ少ケレ
ドモ、嫩木ニ強ク風ノ當ラヌ様ニ注意シテ疎伐

ヲ為スベシ、凡ソ疎伐ヲ為スハ風下ノ方コリ伐
ルベシ、風上ノ木ニアル熟シタル種子風下へ散
布シテ生ジ易ケレバナリ、風下十年木ナレバ風
上一年木ノ如ク仕立テ風下ヨリ順ニ伐木スレ
バ風下ハ種子散布シテ苗木生シ易シ、然シ實地
ノ見計ヒ肝要ナリ、斜面ニテ風モ烈シキ地ハ、前
ノ如ク注意シテモ、縦ノ山林ハ、穢風下ヲ伐ル
モ風上ヲ伐ルモ必次ノ林ヲ倒スモノナレバ、斯
ノ如キ地ハ一本ツ、疎伐ヲナスヲ可トス、凡ベ
テ風ノ強キ所ハ畦ヲ立テ伐ル可ラズ、此時ニハ

撰伐ノ法ヲ行フ、撰伐ノ法トハ、タトヘバ一千本
年々伐ルヘキ山ナラバ、風折ノ木ヲ始メトシテ
所々ヲ伐出スナリ、一山ニ數萬本ノ樹アル内風
折ヲ撰テ二百本ヲ所々ヨリ伐リ、其次ノ八百本
ハ最老木ヲ撰テ伐ルベシ、一ツ所ニテハ伐ラズ、
彼所此所ニテ伐ルベシ、斯ク為セバ毎年同數ノ
材ヲ得ベシ、毎年定リタル數ヲ伐出セバ、常ニ山
林モ繁茂シテ盡ル事ナシ、若ン誤テ千本伐ルベ
キヲ二千本伐レハ、凡ソ二十年ニシテ林木盡ル
ニ至ル然シ又定メタル數ヨリ少ク伐レバ枯木

山林家ノ
朽木等成テ山林ヲ惡カスルニ至ル故ニ山林ノ
形勢ヲ察シテ法方ノ宜キニ從フベシ、山林家ノ
間拔伐リヲ爲ハ、一畦ヲ伐ルヨリ良法トス、所々
ヲ點々伐ルハ、再植伐ニ當ル但シ此法ハ平原良
土ノ山林ニ施シテ良木ヲ得ル法ニアラズ又利
益モ良土ニ比スレバ少シトス

縦ヲ岐山ニ仕立ル事

縦ヲ岐山ニ仕立ルニハ、移植法ヲ用ユ可ラズ、公
園地其他平原ニ仕立ルニハ速ニ長ズル故ニ植
付テ可ナリ苗木畑ハ移植ノ地ト同シカラザレ

ハ能ハズ、本邦仕來リノ苗木ノ作り方モ可ナレ
ドモ、尚一層次ノ法ヲ行ハ、最可ナリ、檜杉樺モ
植付方ハ同様ナレドモ、縦ハ杉ヨリ弱シ故ニ植
付ケノ後ハ透陽ヲナスベシ、苗木ノ作り方ハ歐
州ト異ナル事ナシ、只蒔付方ハ廣キ地ハ疎蒔ニ
スルヨリモ、深サ二尺五寸巾二尺、長サハ適意ニ
溝ヲ掘リ、柔キ土ヲ入レテ、地面ヨリ高ク封盛シ
テ蒔クヲ宜トス、根ハ横ニ蔓ラズシテ柔キ土ニ
蔓ル、故ニ拔ク時ハ其端へ溝程ノ働キ自在ナル
位ニ穴ヲ掘リ苗木ヲ掘リ始メ、段々ニ崩シテ根

ヲ掘レバ鬚根傷マズ、又溝ヨリ外ニ根張ラズ、故
ニ掘リ易ク就中命根アル苗木ハ尚更漸スベシ
根ヲ取ルメズ時節ハ梅雨ノ初メノ頃ヲヨシトス、
若シ掘リ取りノ時、根ノ折レアラバ快刀ヲ以テ
剪ルベシ、植時ニハ根ノ働キナシ、少時ヲ經テ細
土鎮實スレバ土汁ヲ吸フ為ニ必働クモノナリ、
移植ノ時ハ、極細根ヨリハ土汁ヲ吸ハザルノミ
ナラズ、鬚根モ多少毀傷セリ、故ニ吸食セズ、因テ
移植時ハ、土汁モ養分モ苗木ノ入用欲ケハ吸ハ
ズ、然シ葉ハ常ニ絶エズ、木汁ヲ費ス、如此葉ハ費

セドモ、根ハ吸ハズシテ久シク保テ難ク、苗木萎
縮シテ枯レ易シ、根ニ糞溉スベキナレドモ、峻山
ニハ施シ難シ、故ニ葉ヲ減ジテ費シテ省キ、遮陽
ヲ為セバ葉ノ費シタク、根ヨリ吸フ勢キモ防ゲ
ナシ故ニ枝ヲ剪テ葉ヲ減ズベシ、樅ノ山林ヲ作
ルニハ陰ニナル木ヲ存スベシ、密接山林ナラバ
不用ノ横枝ヲ剪ルハ可ナレドモ、揃ヲ伐ル可ラ
ズ、故ニ山林ニハ蒔付ノ法ヲ行フベシ、第一ニ好
種子ヲ獲ル肝要ナリ、樅ノ實ハ子翅アリ軽クシ
テ飛ビ易ク、又油アリ、此油ハ品位變リ易シ、水氣

二觸ル、時ハ忽チ變ズ、種子ハ十月ノ末ニ實ル、
直ニ種子ヲ收ベシ、毬ノ口開ケバ雨露入り易シ、
入レバ忽チ腐ル、松毬ト異ナリテ毬鱗落テ芯残
リ、芯モ亦遂ニ落ツ、毬鱗ト種子ト別ニ落ッ、毬鱗
ハ地ニ落テ種子ハ遠ク飄揚ス、既ニ濕ヲ得テ芽
ノ出ントスルアリ、大抵落レバ直ニ芽ヲ出スモ
ノナレドモ、落ルモノ悉ク生ズル能ハズ、故ニ撰
ニ多數ノ實ヲ結ブハ天工ノ妙手段ナリ、人事ハ
天工ニ勝ツ能ハズト雖モ、須ク注意シテ悉ク生
ゼシムベシ、故ニ十月末ニ收種スベシ、樹ニアル

ヲ收ルハ難事ナレバ、其時ニ當テ伐木スベシ、左
ナクバ杣ニ枝ヲ伐サセテ收種スベシ、樅ノ毬ヲ
收タラバ風氣ノ通ズル廣キ場所へ擴ゲテ乾セ
バ、毬鱗ト實ト離ル、様ニ時々熊手ヲ以テ攪混
スベシ、而シテ篩ニテフルヒ、又箕ニテハクベシ、
時々注意シテ攪混シテ蒸レヌ様ニスベシ、實ニ
ハ子翅アリ、一斗餘ノ毬ヨリ凡ソ八十五六匁ノ
實但子翅ノ付タルモノヲ收カ護スベシ、五合五匁ノ重量ハ
凡五十三匁ヨリ五十七八匁ナリ、一町歩へ蒔ク
ニハ一貫目ヨリ一貫二百目ノ種子ヲ蒔クベシ、

遠國へ贈ルニハ子翅ヲ去ルベシ、左スレバ一町
 歩ニ九百目内外ニテ足レリ、手當宜ジケレバ種
 子二年ハ保テドモ、トシタテ勉テ新種ヲ蒔クヲヨシトス、
 種子ヲ買入レルニハ十五日間試テ良否ヲ決ス
 ベシ、蒔ク所ハ射陽強キハ悪シ、陰ノアル所ヲヨ
 シトス、シモバ氷等ノ立ツ所惡シ、又耕耘シテ惡シ、小木
 雜草等アルモ其小木雜草ヲ刈ル可ラズ、カキ耘ル代
 リニ木ノ小枝類ヲ束テ擘シ、又ハ馬杷ヲ以テ擘
 破スベシ、種子ハ疎蒔ニシテ束薪ヲ以テ擘スベ
 シ、タネ下種ノ好時節ハ秋ナリ、然シ實生ハ春生ズ、三

四月頃ニ蒔ケバ五六周間ニシテ實生發ス、國ニ
 ヨリ積雪中ニ蒔ケバ自然ニ濕テ春ノ雪解ノ時
 下ニ落テ發生セリ、カキ樅ノ種子ニ土ヲ厚ク覆フハ
 却テ惡シ、三分ノ土ヲ覆ヘバ足レリ、カキ苔ノ中ニ
 交テ置クモ可ナリ、小苗木アル所ニ交雜大木ア
 ラバ八九尺一丈許下枝ヲ伐バ風流通シテ可ナ
 リ、カキ蕨其他乱草アラバ根ヲ擘破シテ蒔テ可ナリ、
 荆棘モ蔭ニナレバヨシ、若シ樅忽チ成長スレバ、
 他ノ雜草ヲ枯シテ獨リ直長ス、カキ岐山ニ蒔クニハ
 枯枝断株其他蔭ニナルモノ、際へ蒔クベシ、雜

山林新説二編上巻終
草ノ蕃生スル山ハ畦ヲ為セバリヨウカク両側ノ草蔭ニナ
リ能ク成長ス畦中ノ草ハ取ルヲ善トス凡ニテ
蒔ク時ハ其山林ノ景況ヲ考ヘ注意シ蒔ク事第
一ナリ荆棘バクシ蕨ワケ薇ヱイ覆盆子フクヒコ其他少シク蔭ニナルモ
ノアレバ蒔タル種子生ズルモノナリ

山林新説二編上巻終

片山
直人著

山林新說二編

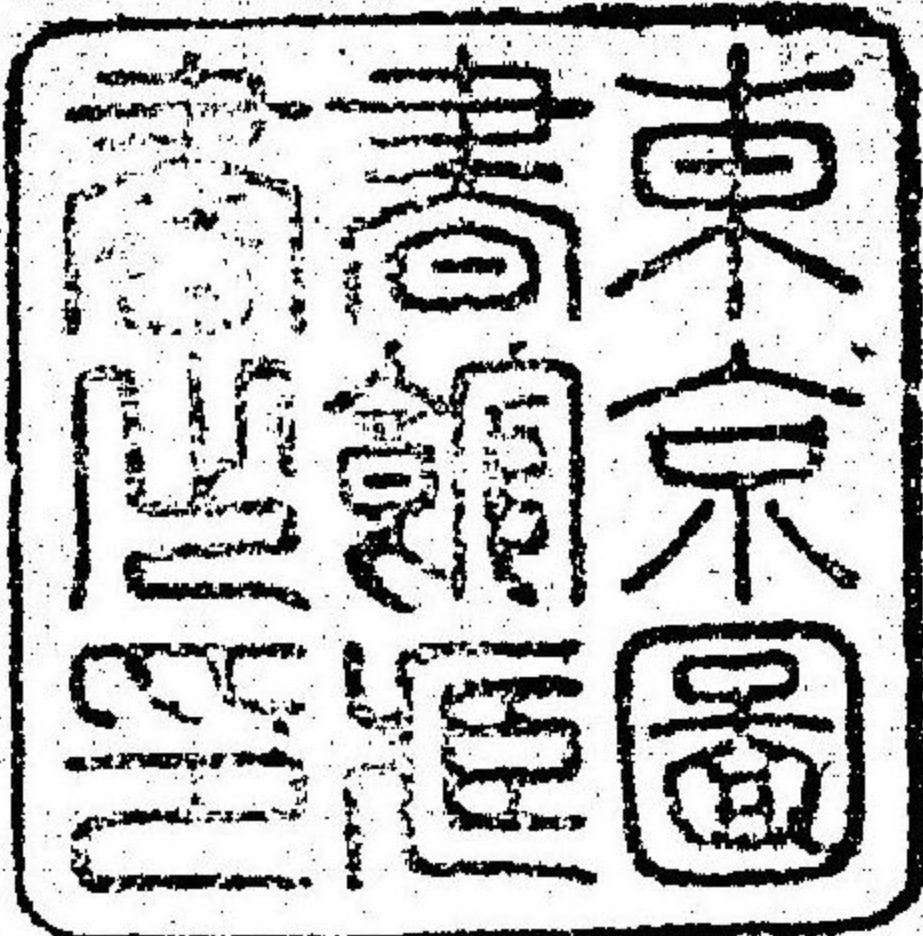
下

卷之一下目録

○ 樞ノ説
○ 樞ノ山林ヲ仕立ル事
○ 樞ノ移植ノ事
○ 樞ノ山林ヲ新ニ仕立ル事
○ 樞ノ山林ヲ仕立ル事
○ 樞ノ伐採期限
○ 樞ノ山林ヲ新ニ仕立ル事
○ 樞油ノ説
○ 伐木ノ適度ヲ論ス
○ 伐木ノ時繩墨ヲ巧ニスベキ事
○ 伐木ノ季節ヲ論ス
○ 松脂ノ採取法
○ 落葉松ノ脂及的列油ノ取り方
○ 柞樹皮ノ剥取法
○ 樽材ノ寸法ノ事
○ 瓦版ノ法
○ 蒸材時間ノ事
○ 白蟻ノ説

東京圖書館

類	屬	八	一	八	四
冊	号	架	函	册	册



山林新説ニ編下卷

榧ノ説

片山直人編輯

榧ハ木質順良ニシテ稠堅ナリ、故ニ折レ易カラズ、朽易カラズ、又輒ク曲ラズ、上品ノ材ナリ、材色ハ正黄白ニシテ脂潤芬香アリ、木理ハ細密ニシテ文采アリ、榧ノ樹數多アリテ歐羅巴へ輸出セバ、利益極メテ多カルベシ、尤材ハ多分ノ益ハアルマジケレドモ實ハ食フベク、又油ヲ搾ルベシ、油ハ最良ニシテ本邦ノ油類中榧ノ油ヲ以テ最

上トス、榧ノ油ハ久シク貯ヘルヲ得テ橄欖油ト
 同様ニ用ユベシ、故ニ本邦ニ榧ノ山林ヲ仕立テ
 多量ノ油ヲ製出スレバ必ズ其益大ナルベシ、然
 ルニ不幸ニシテ榧ノ山林ナシ、甲斐ノ國中ニ榧
 凡ソ九十本ナラデハナシ、本邦ノ人民榧ノ樹ニ
 注意シテ仕立ザル故ナリ、前ニ云フ如キ良木ナ
 レドモ、民家ノ週遭ニ締ニ二三本植ルノミニテ
 山林ニ仕立ル事ヲ今日マデ為ザリシハ何故ナ
 ルヤ、榧ノ山林ニナキヲ以テ考レバ榧ハ山林ニ
 生ゼザルモノナルヤ、植付ノ難キモノナルヤ、又

ハ園庭ニ植テ世話ヲスル如ク注意セザレバ成
 長セザルモノナルヤト言ヘバ、世人ハ榧ノ樹ハ
 生殖シ難キモノナレバ山林ニナシト思フ者モ
 アルベケレドモ、榧ノ山林ヲ作ルハ難キ事ニア
 ラズ、又植付ヲ為サズシテ生ズルモノナリ、山林
 ニ入レバ一尺五六寸ヨリ三尺許ノ榧ノ嫩木ハ
 常ニ多ク生ズルヲ見ル、是レ植付ケテ為サズシ
 テ自然ニ生ズルノ確証ナリ、自然ニ生ズル程ノ
 モノナレバ、種ヲ播テ生ゼシムルニ難キ事ナキ
 ハ言ヲ待タズ、然レドモ小木多クアリテ三尺以

山林新説二編 卷之下 真無標註

上ノ樵ナキハ如何ナル所以ナルヲ知シテ要ス、
是レ樵ノ山林ヲ仕立ル第一ノ目的ナリ樵ノ芽
ノ注ルニ入用ナルハ、濕氣ト養分ト蔭トナリ、此
ノ三ツノモノ、適宜ナル地ニハ樵生ズ、然シ濕氣
ト蔭サヘアレバ樵必生ズト云ヒ難シ、濕氣ト養
分ト蔭アリテ自然ニ生ズル所アレドモ、尾張ノ
南向ノ山ノ如キ地秃山ナレニハ生セズ、山林ノ
内ニ陽光ト濕氣ト養分ト適宜ニシテ樵ノ嫩木
無數ニ生スル所アリ、常ニ密樹ノ下又ハ叢菜ノ
中ニ生ジテ一尺五六寸ヨリ三尺許マデハ、長ズ

レドモ夫ヨリ長スルニハ陽光ト空氣ト多クハ
用ナリ、然ルニ叢菜ホサツカ又ハ密樹ニ妨ゲラレテ空氣
ト陽光トニ乏シクシテ、遂ニ枯槁ス、斯ノ如キ山
ハ樵ノ種木タネキハアレドモ、手入ヲセザレバ、樵成長
セズ、稀ニ一二ノ大木アルハ元蔭ニナリタル木
枯レ、或ハ折レタルニ由テ長ジタルカ、又ハ林中
ノ往來ヲ作ル時、雜木ヲ伐リタル等ニ由テ長ジ
タルナルベシ、樵ハ注テヨリ二三年ハ雜木ト同
様ニ長スレドモ、雜木ハ樵ノ右ニ出ルヲ以テ、遂
ニ歷セラレテ長ゼズ、樵ハ大木ノ下密樹ノ陰ニ

アレハ長セズ檜ハ成長スル早クシテ叢菜ノ中
 ヨリ聳テ生ズル故ニ大木アリ、榧ハ檜ニ比スレ
 バ成長遅シ、故ニ多ク雜木ニ壓セラレテ枯レル
 モノナリ

榧ノ山林ヲ仕立ル事

榧ノ山林ニ蕃生セザルハ既ニ前ニ論ズル如シ、
 今榧ノ山林ヲ仕立ルニハ、先榧ノ嫩木ノ自然ニ
 多ク生ズル山ヲ擇テ着手スルヲ可トス、手入レ
 ノ仕方ハ、凡ベテ檜ノ如ク疎伐其他周圍ノ雜木
 亂草ヲ刈リテ榧ノ嫩木ノミヲ存スベシ、三尺以

上ノ榧ハ陽光ト空氣トノ當テ方ヲ適宜ニスル
 ヲ最難シトス、總ベテ樹木ハ、何木ニ限ラズ、其樹
 性ニ由テ陽光ト空氣トノ當テ方多少ノ見計ヒ
 肝要ナリ、本邦ノ山林家ハ、未ダ山林ノ手入レニ
 熟セズ、故ニ檜ノ自然生ノ世話ヲスルハ易ケレ
 ドモ、榧ノ手入レハ難シ、故ニ榧ノ芽生ノ密接シ
 テ生ジタル山林ニ着手スルヲ可トス、最初ノ年
 ニハ榧ヨリ少シク長ジタル雜木ヲ伐ルベシ、尤
 蔭スクナキ所ナラバ、伐ラズシテ他木ノ生長ス
 ルヲ願ベシ、他木ヲ伐ルト伐ラザルトハ、凡ベテ

山林新編 卷之十 真經

樵ノ大小ニ由ルベシ、大クナリ陽光ト空氣ト入
用ニナラバ他木ヲ伐リ、遂ニ山林ニ樵ヨリ大木
ナキ様ニスベシ、樵而已ニナリタル時ハ悪キ木
ヲ伐リテ、種枯ヲ除キ樵ノ妨ニナル木ハ悉ク伐
ルベシ、樵ハ自ラ抽デ、長ズルノ性質ニアラズ、
故ニモシ他木ニ妨ゲラルレバ必枯瘁ス、故ニ疎
伐ヲ第一トス、元來山林ノ疎伐ハ落葉後ヲ可ト
スレドモ、雜木ヲ除ク為ノ疎伐リニハ三月ヲ時
トス、何トナレバ、藥ノ生ズル患アル故ニ三月頃
ニ疎伐ヲ為セバ、木液殺テ枯レ易ケレバナリ、樵

ノ山林ヲ仕立ルハ其職業ニ堪ル人ナラバ敢テ
難キ事ニアラズ、然レドモ樵ハ大抵長大ナル迄
ヲ養ヒ難シトス、大抵長大ニナレバ他木ヲ壓シ
テ長ズル故ニ手入レヲ要セズ、凡山林ハ樹葉密
接シテ陽光葉間ヨリ地ヲ透サズルヲ要トス、就
中樵ハ最モ陽光ノ葉間ヨリ透ラス様ニ注意シ
テ仕立ベシ、樵ハ圓錐形ニ生ズル性アリテ他木
ノ如ク枝四散スル樹ニ非ズ、故ニ陽光入り易ク
シテ忽チ枯槁ス、樹木ハ元陽光ト空氣ト充分ナ
レバ枝四散スレドモ、樵ハ陽光ト空氣ト充分ア

レドモ枝蔓延セズシテ圓錐形ニ生ズル性アリ、
又天災ニ逢ヒ^等烈風枝^ク挫折スルモ自ラ直ス事
ナシ、枝葉密接セズ、陽光樹下ニ入リ易シ、故ニ他
木ノ山林ヨリ密ニ仕立ベシ、最初ヨリ此注意ナ
ケレバ樵ノ山林ハ繁殖シ難シ、樵ノ山林ヲ仕立
ルニハ、多年山林ノ事ニ熟練シ、且學術モアル者
ニアラザレバ能ハズ、故ニ今之レヲ仕立易キ様
ニスルニハ山林ノ^風ヲ易ヘルヲ可トス、風ヲ易
ヘテ仕立ルトハ樵ヲ樵ト^交テ作ルナリ、樵ト樵
トヲ交テ作レバ仕立易クシテ利益最多シ、凡ソ

樵ノアル山ニハ大槪樵アリ、故ニ山林ノ^疎伐ノ
時他木ヲ伐リ樵ト樵トヲ殘スベシ、樵ヲ殘シテ
樵ノ^嫩木ノ成長ヲ助ケシムベシ、^斯ノ如クナセ
バ樵モ繁殖シテ樵ノ實ヲ多ク收獲スルヲ得ベ
シ、樵ト樵トノ^交リタル山林ニスルヲ可トスレ
ドモ、樵ハ常ニ樵ヨリ小ナル木ヲ存スルヲ法ト
スベシ、樵ハ圓錐形ニ生ズ、故ニ獨リ陽光ヲ掩フ
能ハズ、樵ノ^長大ニナル迄ハ樵ヲシテ陽光ノ直
射ヲ防クノ^陰ヲナサシムベシ、初メ惡木ヲ刈リ
山林ヲ仕立ントスル時ハ樵ノ小木ヲ刈リ實ノ

成ル大木ノミヲ存スベシ、榧少シク長ズル項ニ
榧ノ嫩木ノ出來ル様ニスベシ、榧若シ一本枯ル
レバ榧ノ枝護リテ其空隙ヲ補フ様ニ為スベシ、
榧ノ實モ榧ト同ジク油ヲ製スルヲ得ベシ、榧ノ
油ハ新シケレバ食用ニシテ味美ナリ榧油ノ詳ハ后ニ
リナ榧ノ山林ハ油ヲ取ルヲ至トスレバ實多ク取
レル木ノ成ルヲ專一ニ仕立ベシ、榧ノ山林成テ
實ヲ拾フ時ハ榧ノ實モ合セテ拾フベシ、榧ノ實
ハ毎年必ズ多ク稔ルモノニアラズ、今年ハ榧ノ
實ヲ拾ヒ、來年榧ノ實ヲ拾へバ、毎年實ノ收穫モ

アリテ油ノ利益盡ル事ナシ、凡百町步ノ榧ノ山
林アレバ、三ヶ村許ハ生活スベシ榧ノ收穫高ク見テ参考スベシ
シ冬ハ實ヲ拾ヒ油ヲ製スベシ、榧ト様トノ油何
レモ佳ナリト雖モ、別々ニ搾ルベシ、混淆シテ搾
ルハ宜シカラズ、榧ノ實ヲ拾ヒタラバ早ク搾ル
程益良品ノ油ヲ獲ベシ、若シ急ニ搾ル事ヲ得ザ
ル時ハ能ク乾シテ置クベシ、少シモ腐ラヌ様ニ
注意シテ粗榧ノ如ク泥水ニ浸シ置ク可ラズ、榧
ノ山林好況ニ成テ薊鬱ナレバ雜木乱草モ生ゼ
ズ、實ヲ拾ヒ易ク、又樹下ヲ見透ス、故ニ鳥獸ノ來

テ實ヲ掠ルモ亦防ギ易シ、糠ノ實モ榧ト同ク拾
ヒタラバ、早ク搾ルベシ、蒸爛ス可ラズ、又油ヲ搾
ル袋ハ激油取り換ベシ、久シク用レバ臭氣アリ
テ油ノ味ヲ損ス、故ニ能ク洗ヒ清潔ナル袋ヲ用
ユベシ、

榧ノ移植ノ事

榧ノ山林ヲ仕立ルニハ、榧ノ自然生ノ山ヲ擇ブ
ベキ事ナレドモ、稀ニ榧ノアル山ニテモ、或ハ十
キ山ニテモ、最初ヨリ榧ノミノ山林ヲ仕立ルハ
難ケレバ、糠ト榧トヲ移植シテ後ニ漸々ニ榧ノ

山林ニナル様ニ注意シテ、伐木年期一周ノ後ニ
ハ全ク榧ノミノ最美ナル山林ニスベシ、榧ノ大
木アル所ナレバ實生多クシテ榧ノ山林モ成易
ケレドモ、榧糠モナキ所ナラバ、他木ニテモ其所
ニアル樹ヲ伐ラシテ、榧糠ノ生長ヲ助ケシム
ベシ、尤榧糠ヨリ丈長カラズ、枝ノ四散シテ地ヲ
覆ヒ蔭ヲナス樹ヲ存スベシ

榧ノ山林ヲ新クニ仕立ル事

今迄榧ノナキ山林へ新クニ榧ヲ仕立ルニハ、先
ツ地質ヲ鑑定スベシ、地質充分ニ榧ニ適當シク

ル地ニ非ザレバ勞シテ益ナカルベシ、樵ニ適シ
タル地ナラバ實モ多ク收穫スベク且油モ多ク
搾ルベシ、樵モ庭園ニ作レバ手八レモ充分ニ到
レドモ、山林ハ家園ニ於テ兩三個ノ樹ヲ養フ如
ク為ス能ハズ、故ニ地質ト位置ト高下トヲ鑑定
スル事第一ナリ、先ツ樵ニ適スル地ヲ考ルニ北
向ノ山ニ多クハ樵ノ大木アリ、故ニ南向ノ山ヨ
リ北向ノ山ニ苗木ヲ移植スレバ早ク功ヲ奏ス
ベシ、地ハ少シ濕リタル土ニテ粘土質ノ地ヲ可
トス、就中粘土質ノ土山ノ麓へ流レ出シタル所

最可ナリ、樵ハ樵ト粗同質ナレバ樵ノ生ゼザル
地ニハ決シテ生セズ然シ樵ノ生ズル地ハ樵ニ
適スト云フニアラズ、樵ノ天然適度ハ海面ヨリ
六百六十尺以上二千二百尺マデノ間ヲ可ナリ
トス、是レヨリ上及ビ下モ可ナラズ本邦ハ所々
ニ樵ノ山林ナシ、故ニ高サノ度ハ確定シ難ケレ
ドモ右ノ高サハ樵ノ自然生ノ高サナリ、故ニ樵
ノ山林ハ高下ト位置ト土質トヲ鑑定シテ仕立
ベシ

兼ノ山林ヲ仕立ル事

榦ハ温帯ニ産スル樹ニシテ、熱帯ニ生ズル樹ニ
 アラズ、楢ヨリ寒キ地ニ生ズ、駿遠相武邊ハ楢ア
 レドモ、楢ニモ適スル地ニアラズ、楢ニハ尚適セ
 不熱ニ過ル地ハ楢ニ適セズ、楢ハ暖氣ニ過ギテ
 モ生ズル能ハズ、箱根山ノ中腹ニモ、楢蕃生セズ、
 夫ヨリ上ニ楢蕃生ス、故ニ高キニ登ル程楢ハ蕃
 生シテ肥大ナル者多シ、駿河遠江邊モ山麓ニハ
 楢ナシ、富山其他高山ニ登ル程楢蕃茂ス、是ヲ以
 テ楢ハ熱地ニ生ゼザルヲ徴スベシ、楢ハ瑞典ノ
 「ストックホルム」府ニテ止マリ、楢ハ西伯利地方迄生ス

本邦モ海面ノ地ニハ楢ナシ、四國九州地方ニテ
 産スル稀レナリ、高キ山ニ登ラザレバ楢ナシ、楢
 ノ産スル所ニハ楢アリテ、楢ヨリ數倍強シ、楢ノ
 生ゼザル所ニモ楢生ズ、楢アル地ニハ必ず楢ア
 リ然レドモ楢アル所ニハ必ず楢アリト云ヒ難
 シ、山ノ峯ニハ楢多シ、楢ハ能ク風ニ堪ユレバナ
 リ、本邦ハ烈風多シ故ニ黏土質ノ山嶺ニハ楢多
 シ、駿河ノ駿鷹山、伊豆ノ天城山等モ、山ノ峯ハ楢
 ノミナリ、楢ハ強キ樹ニシテ平坦ノ寒地及ビ山
 ノ峯ニモ生ズ、寒キ季候ニ堪ル樹ナルバ、南向ノ

山ニアレバ早ク新葉開テ暮春ノ霜ニ傷ム事アリ、椈楳ハ楳ヨリ新葉發莖スル遅シ、故ニ此難ニ逢フ稀レナリ、楳ハ寒ニ堪ユレドモ晝暖ニシテ夜極寒ナルハ惡シ、又山ノ西北ノ向ハ善シ、東南ノ向ハ惡シ、樹類ニヨリ南向ニ於テ育ル法アレドモ、楳ニハ惡シ、楳ノ如ク寒ニ堪ヘ暖ニ弱ル樹ハ、蔚林茂樹ノ下ニ植レバ暖ニ堪レ寒ニ死スル事ナシ、瀟灑ノ樹ヲ五六十_年伐ラズニ存シ置キ、植タル樹ノ成長力強クナリタル時ニ元ノ蔚樹ヲ伐レバ、霜ニ凍死スル事少シ、人造ノ山林ニ於

テ、南向ノ山ニ樹林ヲ仕立ルハ此法ナリ、楳ハ如何ナル地質ニテモ生ズ、只純砂ノ地ニハ生ゼズ、又地質ハ好シト雖モ、沼澤等且如ノ地ハ宜シカラズ、真土ノ厚少シアル地ナレバ生ズ、尤毎年落葉ノ積テ飛散セザル地ヲ善トス、落葉其他塵芥等ノ累積スル地ノ外ハ、地層厚カラザレバ生ゼズ、楳ノ岩石上ニモ生スルハ、落葉等アレバナリ、歐洲ニモ楳アリ、本邦ノ楳ト異ナルナシ、楳ニ附テノ教アリ、本邦人ノ注意シテ知ルベキ事ナリ、歐洲ノ楳ハ四月葉ノ由ル前ニ花開ク、故ニ寒ニ

山林新説 二編 卷之十 桑樹栽培法

凍死スル事アリ、榦ノ毎年實ラザルハ全ク此故
ナリ、二三年或ハ四年目ニアラザレバ榦ノ種子
ヲ收穫スル能ハザル事アリ、其實熟スレバ十月
落ル、穀斗^カ開テ種子落テ最後ニ穀斗落ル、種子ハ
稍重シ、故ニ^カ播ノ如ク直下セザレドモ樹下ニ落
ツ五十年ヲ経タル樹ニアラザレバ^{ヨキ}良種ハ得難
シ、三十四十年ノ樹ニテモ實ハ結ベドモ^タ蒔テ^タ苗芽
少シ、葉ハ密接シテ^タ蒨^タ鬱セリ、此種類中最モ多葉
ノモノトス、嫩苗ノ中ハ日蔭ヲ好ムモ天造ノ妙
ニテ都合ヨク^タ成ル、種子直下スレドモ陰ヲ好テ

生ズルハ榦ノ陸續蕃生スル所以ナリ、若シ此妙
工ニ反スレバ、榦ノ樹盡ルニ至ルベシ○凡ベテ
移植セズシテ陸續蕃生スル樹類ナラバ蔭ヲ好
ムト云フモ可ナリ、故ニ^タ合^キ歡^キ木ノ如キハ母樹ノ
跡ヲ^タ続^キグ能ハズ、種子輕小四方ニ^タ飄^キ散シ稀ニ適
スル地ニ落レバ生ズレドモ直ニ樹下ニ落テ生
ズルモノ^タ殆^キド^キ深ナリ、榦ノ種子ハ飛散スルモ^タ河
所ニテモ生ジ、^タ樅ノ山林ニ^タ樅ノ^タ簇々生ズルハ樹
陰ニモ生ズレバナリ○榦ノ發芽スルハ陰地ヲ
好テ日光ト暖ヲ避テ生ズ、榦ノ嫩木ハ寒ニ堪ヘ

山林新説 二編 卷之十 桑樹栽培法

テ熟ニ堪ヘス、落葉ハ水分ヲ含テ陽光ヲ透サズ、
 故ニ發芽ヲ助レドモ、土ハ日ヲ透ス、故ニ榦ノ發
 芽ニ宜カラズ故ニ榦山ノ落葉ヲ拾ヒ取ルハ禁
 ズベシ、就中伐採ノ二三年前ハ落葉ヲ取ルハ宜
 シカラズ、榦ノ嫩木ハ、命根アリ、命根ノ周ニ鬚根
 少許アリテ忽チ鬚根ハ横ニ延テ命根ノ長ズル
 ハ止ル、横根土ト平行シテ地層ニ護リ幾許ノ層
 ヲナス、是レ其淺キ土ニ生スル所以ナリ、南向ハ
 根ヘ陽光透ル故ニ落葉アレバ少シハ防ゲドモ、
 南向ハ惡シ、春ノ殘霜最惡シ、榦ハ他ノ木種ト共

ニ生スルヲ得ルハ、榦ハ上層ノ養分ヲトリ、榦其
 他命根アルモノハ下層ノ養分ヲトリテ各吸食
 スレバナリ、榦ノ根ハ横斜ニ入ル故ニ命根トハ
 云ヒ難シ、榦榦混ジテ生ズルモ山林ニ益ヲナス
 ナリ、榦ト榦トハ交テ生ズルモ根モ和シ葉モ亦
 然リ根葉共ニ和スル故ニ榦榦ヲ共ニ植テ可ナ
 リ、榦ハ價アルモノナレバ何所ノ山林ニモ植テ
 可ナレドモ價尠シ因テ何所ヘモ宜シトセズ、榦
 榦榦ニモ交テ植テ可ナレドモ價ナキが故ニ
 榦榦ノミヲ植ルヲ益アリトス、榦ハ初メノ十年

迄ハ成長遅シ、十年ノ後ハ勢力強クナリ成長極
 テ早ク、忽チ初メノ遅キヲ補フ、四十年ニシテ一
 尺八九寸ヨリ二尺ノ周圍ニナリ、六十年ニシテ
 二尺四五寸ヨリ三尺ノ周圍ニナル、本邦ノ楸ハ
 最モ長大ニナルベシ、若シ楸自然ノ命數終ルマ
 デ存置スレバ、十二三丈餘ノ長サニナリ二百五
 十年ヨリ三百年ヲ経レバ根調ノ太サ一丈五六
 尺ニ至ル、五百年ノ樹ハ周圍凡ソ二丈八九尺ヨ
 リ三丈ニ至ル、尤モ地ノ適スル所ニ非ザレバ此
 肥大ヲ致サズ、然シ老木ハ多ク腐リ易シ故ニ楸

ノ伐採ノ適度ハ、二百五十年以内ニアリ尤モ土
 地ニモ由レドモ、本邦ニテハ七八十年位ヲ適度
 トシ九十年ヲ止リトス、故ニ伐木ノ度ハ地ニ由
 リ位置ニ由テ確定シ難ケレドモ、七十年ヨリ百
 二十年ノ間ニ伐ルベシ山林ヲ仕立ルニハ、最初
 ニ見込ヲ立テ、何頃伐ル事ヲ定ムベシ本邦ニテ
 ハ海岸近ノ地味ヨキ所ニテハ七十年位ニテ伐
 木シテ可ナリ、地味悪キ所及ビ復ノ乾燥ノ爲ニ
 樹ノ疲瘦スル所ナレバ、百二十年ヲ経ザレバ伐
 木スルヲ得ズ、地味極悪キ所ハ、百二十年生活セ

ザル所アリ、斯ノ如キ所ハ六七十年ニテ伐木ス
ル事モアリ、所ニ由テ有用ノ材ニナラズ薪ニ供
スル等ニテ二十年ニテ伐ル所モアリ、元來伐木
ハ山林毎ニ能ク研究シテ其期限ヲ定ムベシ、本
邦ニテハ椴ノ地味ニ相應ジタル所ナラバ、凡七
十年ヨリ百二十年ノ間ニ伐ルヲ可トス、今椴ノ
天然良好ノ山林アリ、之ヲ伐木セント欲スル時
ハ、第一ニ發芽ノ為ニ陰トナル様ニ母樹ヲ十分
ニ残スベシ、椴ニハ最モ陰多ク入用ナリ、椴ハ枝
ト枝ト接セザル程ニ間ヲ隔ベシ、椴ハ勉メテ枝

ヲ密接セシムベシ、椴ハ母樹ニ惡木ヲ殘シ、椴ハ
良質ノ大木ヲ殘スベシ、本邦ニテハ、椴ヲ屋材ニ
セズ、故ニ大木ヲ殘スモ不便ナシ、椴ノ實ハ輕
ケレドモ、椴ノ實ハ重クシテ樹下ニ落ツ、故ニ多
クハ陰ニナリ易ケレドモ、實生ノ内日光直射ス
レバ枯レ易シ、故ニ勉テ陰ヲ成ス様ニ注意スベ
シ、伐採ノ時ニ當テ陰ヲ成ス、適度ヲ考ルハ難
シ、故ニ陰ノ少キヨリ寧ロ陰ノ多キヲ誤リナシ
トス、芽生多ク生ズレバナリ、椴ノ熟スルハ毎年
ナラズ二三年ヲ置テ熟ス、故ニ伐木ハ熟年ヲ可

トス、若シ熟ラザル年ニ伐ル時ニハ陰ニナル母
樹ヲ少ク残スヲヨシトス、如何トナレバ熟年ニ
ハ枝四散シテ陰ニナレバナリ、今年伐木シテ五
六年ヲ経テ熟ル時ニハ、枝四散スルヲ以テ枝ノ
頭ヲ適宜ニ伐ルベシ、種子落テ芽生スル時ハ
五六寸ヨリ一尺位ニ長ズル迄其儘置クベシ、能
ク長シタル時ヨリ漸次ニ伐テ光線ヲ與フベシ、
欧州ノ山林家ノ巧ナル人ハ半分伐レドモ、本邦
人未ダ此事ニ熟セズ、故ニ四分ノ一又ハ三分ノ
一、漸々ニ伐リ漸次ニ空氣ト光線ヲ與フルヲ良

法トス、陰ニナル樹ヲ伐ニモ、根ニ伐ルハ惡シ、雪
國ナラバ雪中ニ伐リ、雪ナキ國ナラバ枝ヨリ枝
迄伐ルベシ、積雪ニ尺餘アレハ伐リ斃スモ實生
ノ害ニナラズ嫩木壓セラル、モ雪消スレバ元
ニ復ス、伐ルニハ勉テ根元迄伐ルヘシ、翌年下種
シテ其樹二尺以上ノ高サニナレバ、陰ニナル樹
ヲ残ラズ伐テヨシ、獨立シテ長ズル様ニナリタ
ル樹ヲ伐木スルニモ嫩木ヲ折ラス様ニ注意ス
ベシ

兼ノ伐採期限

椽ハ一尺五寸ヨリ二尺ノ根周ニナル迄ハ手入
 スベカラズ、但シ風折レ及ビ枯木等ハ伐ルベシ、
 右ノ根周ニナリタル時、樵夫ヲシテ疎伐スベシ、
 其時ニ他木ト椽ノ惡木トヲ除クベシ、密接ノ木
 ヲ疎セバ雪風ニ艱ムト見認タラバ二尺二三寸
 ニナル迄疎伐ヲ延ハスベシ、譬ヘバ椽ノ山林ア
 リ、地味中等ニシテ高サ海面ヨリ三千三百尺位
 ノ所ニテ百二十年ヲ伐ルト定ヌ、最初四十年ニ
 シテ一尺三四寸ノ周圍ニナル時第一ノ疎伐ヲ
 為シ一町歩ニ付四千本ヲ残フベシ、又二十年ヲ

經テ凡ニ尺ノ周圍ノモノヲ千四百本ヲ残ス第二
 伐ノ疎又二十年ヲ經レバ八十年ノ齡ニナル時八
 百本ヲ存ス第三、又二十年ヲ經テ百年ニナレ
 バ第四、疎伐ノ五百七十五本ヲ存ス、又二十年ヲ經テ
 百二十年ニ至ル時殘ラズ伐木ヲ行フベシ、若シ
 此時再ビ椽ノ山林ヲ仕立ルニハ、殘ラズ伐ル可
 ラズ、蔭ニナル樹ヲ百五十本ヨリ百六十本ヲ殘
 セバ、椽ノ梳適宜ニ接シ蔭モ光モ亦適宜ニ至ル、
 若シ翌年種子生ズルモノト見做セバ、三四年目
 ニハ實生六七寸ヨリ一尺位ノ高サニ至ルベシ、

此時ニハ前ニ云フ仕法トハ伐採ヲ異ニセザル
ヲ得ズ雪類ノ時ハ落葉ノ地ニアルモノ及ビ地
面モ共ニ崩レテ誘ヒ去ル事アリ、烈風ノ當リシ
所ト雪類ノ所ハ撰テ伐ルベシ、然シ逐次ニ伐リ
初メ、伐リタル樹ノ隣木ヲ後三十年目ニ伐ル位
ニナスベシ、地形極テ峻岨ナル地ハ、一本ヅ、所
々ニテ疎伐スベシ是レハ已ムヲ得ザル時ノ法
ニテ有益ノ法ニアラス、櫟ノ山林ハ自然生ノ山
林ノ外ハ他木ヲ植ズシテ、櫟ヲ最初ニ仕立テ後
ニ其地ニ適シクル樹ヲ植ルヲ益アリトス、山ノ

山林新造ニ法
五
真無慮ノ反

峯其他人造ノ山林ヲ仕立ルニ山ノ絶頂ノ烈風
アリテ檜樅ニ堪ヘザル所ニテモ櫟ヲ植テ二十
年ヲ経バ、烈風解雪ノ防ギニナリ、又地味ニヨリ
稍ト交テ仕立ルヲ益アリトス

櫟ノ山林ヲ新ニ造ル法

新ニ櫟ノ山林ヲ仕立ルニハ、苗木ヲ移植スルヨ
リ播種スルヲ可トス、移植ノ樹ヨリ根蔓リテ成
長ス、櫟ノ實ハ畧推ノ實ニ似タリ、其殻斗四ツニ
裂テ三角ノ種子ニツヅ、アリ、殻斗開キタラバ
直ニ收ルベシ、少時ヲ経ハ油アル故ニ腐ヲ醸シ、

山林新造ニ法
五
真無慮ノ反

又地ニ落レバ忽チ虫生シテ發苗ヤス熟ル時節
 ハ土地ノ寒暖ニ由ル故ニ何頃トモ定メ難ケレ
 ドモ、凡九月ノ末ニハ熟スベシ、穀斗ノ烈レタル
 時ヲ可トス、實ヲ收ルニハ、枝ヲ振フカ、又ハ樹ニ
 登テ取ベシ、實ヲ收穫セバ直ニ日ニ曝シ穀斗ノ
 離レタルヲトリ乾カシテ貯フベシ、播種ハ秋ノ
 末ニ播ケバ五六ヶ月ニテ生ズ、本邦ノ季候ニテ
 ハ三月ノ末桃ノ芽ノ出ル時ニ下種ヤバ三週間
 位ニテ生スベシ、尤平地ナラバ早ク蒔キ、山ハ遅
 ク蒔クベシ、又冬蒔クモヨシ雪アル國ナラバ雪

ノ上ニ蒔テヨシ雪解ノ時ニハ地ニ落チ又流レ
 テ所々ニ生ズ、一般ノ法ハ、春下種スルヲヨシト
 ス、種子ヲ貯フルニハ、空氣通暢ノヨキ所ニ置キ、
 數回攪混スベシ、種子ノ數ハ、一町歩ニ付八十四
 五貫目ヨリ百貫目ヲ下種スベシ、兼ノ山林ヲ様
作ル割合ヲ蒔
 キテ一旦ハ生スレドモ蔭ニ乏シケレバ枯
 レ易シ、之ヲ助ルニハ同時ニ麥ヲ蒔クベシ、而シ
 テ麥ノ穂先ヲ切レバ蔭ニナルナリ又雜草ノア
 ル所ナクバ草ヲ刈ラズシテ畦ヲ立テ、蒔ケバ、
 初メ嫩木ノ長ズルハ遅ケレドモ確實ナリ畦ヲ

子ヲ蒔クニハ多ク種 嶮山嶮間等ナラバ一^キ株其他陰ニナルベキモノ、際^{タミ}へ五六粒ノ種子ヲ蒔クベシ此法ハ畦蒔ヨリ發生速^ク又移植ニハ苗木ノ間、凡ソ三尺ヲ置キ、穴ノ深サ四寸、廣サ八寸、或ハ一尺四方ニ掘リ、二年目位ノ苗木ヲ二本ツ、植ベシ苗木ハ山ノ自然生ヲ植ルモヨシ又ハ作りタルモノニテモヨシ苗木ノ週^リ遭ニ、雜草小木等ノ生スルヲ存置スベシ、下種スルモ移植スルモ糠ノ成長セザル事アリ、是レハ陰ノ都合惡キ故ナレバ、若シ不成ノ時ハ、荆棘其他何ニテモ生タ

ルモノヲ存シ置キ、又ハ陰ニナルモノヲ植テ後ニ移植スレバ^成ガ^ル事ナシ

糠子油ノ説

糠實ノ多少ハ、樹ノ年齢ニ由テ^差アリ、糠ハ六十年ヨリ數レドモ、五十年ヲ經タル木ニアラガレバ良實ヲ結バズ、年齢ニ由テ實ノ收^レ獲多少ノ差アル左ノ如シ

年齢 穀ヲ脱タル實ノ^目目

六十年 三合五勺

七十年 四合四勺

八十年	五合二勺
九十年	八合八勺
百年	一升三合七勺
百十年	一升九合三勺
百二十年	二升七合五勺
百三十年	三升三合
百五十年	八升二合五勺

五斗五升ノ生實ヲ乾セバ四斗一升二合五勺ニ減ス、棟實熟スレバ佛國ニテハ八札拂ニス、落札人ハ仲間或ハ村方へ賣ル、千八百六十九年ヨリ

ト云フ山林ニテ賣タル高金一万四千「フラン」我金二千八百圓餘實ヲ拾フハ一ヶ月間、一人ノ男丁二人ノ小童ト三人ニテ、一ヶ月ニ三十三石ヲ拾フ、但シ穀ヲ脱タルモノ乾シ上テ二十四石七斗五升、是ヲ拾テ來テ村内ノ水車至へ賣ル、其價五百四十「フラン」我金百八圓餘、水車至ハ買テ油ヲ搾ル、此目方十二貫九百六十目是レヲ九百「フラン」我金二百十六圓餘ニ賣ル、實ヲ拾フハ、九月ノ末ヨリ十月ノ末迄ナリ、油ヲ搾ルハ十二月ヨリ始メ、能ク乾シ上ザレバ油ニ濁リアリ、然シ三ヶ月ヲ

山林新誌二編 卷之十一 真無義裁

經テ搾レバ油ノ性惡ク食用ニナラズ機械油ノ外用ニ難シ故ニ油ヲ搾ルノ時ヲ誤ル可ラズ十二月ヨリ一月中搾レバ食用ニ供スベシ實ノ殼皮ノ碎片ノ如キモノハ是ヲ去リテ油ヲ搾ルベシ去ラザレバ油ヲ吸收シテ油量ヲ減ズ繁忙ニシテ去ルヲ得ザレバ共ニ搗事アリ此時ハ油七分ノ一ヲ減セリ殼皮ヲ去ラバ直ニ油ヲ搾ルベシ然ラザレバ澁クナル事アリ上等ノ油ハ殼皮ヲ去リタルヲ清潔ノ袋ニ入レテ搾ベシ搾ルニハ能ク注意シテ陳キ油等ノ袋ニ侵タルモノヲ

洗テ用ユベシ袋ハ數回洗フヲヨシトス常ニ油ヲ搾ルニハ馬糞ニテ作りタル袋ヲ用ルヲ可トス能ク注意シテ製シタル油ハ上等ナル阿利穢油ト匹適スベシ然シ搗ノ油ハ永ク大氣ニ曝セバ食味變ズ故ニ壺或ハ罌ニ入レ密ニ口ヲ封スレバ何年モ保ツベシ新シキ油ハ三月ヲ經レバ沈澱物ヲ生ズ之ヲ去リ又口ヲ密塞ス又六月ニシテ瀝ス其後八年々一度ヅ瀝過スベシ三年目ニ油透明ニシテ食味モヨクナリ十年ノ後ハ少シヅ惡クナルモノナレバ貯藏ニ注意スベシ

シ○二等ノ油ヲ製スルニハ殼皮共ニ破碎シテ
微温湯ヲ加ヘ煉テ次第ニ搾リ上グベシ、湯ヲ入
レル為ニ多ク油ノ盡ルマデ搾リ又碎粉シテ熱
湯ヲ加ヘテ再ビ搾ル、此ニ番搾リハ燈火ニスベ
シ、油滓ハ、家猪、山羊、牛、馬ヲ飼ヒ、又草木ノ肥養ト
ナシテ最宜シ

以上檜、樅、槲、櫟ノ四木中ニ山林ノ數法ヲ論ス、
是ヨリ以下ハ山林ニ屬スル有用ノ數件ヲ附
ス讀者之ヲ諒セヨ

伐木ノ適度ヲ論ス

伐木ノ適度ハ凡ベテ山林ヲ措置スルノ基ヲ為
ス者ナリ、或ハ伐木スベキ樹木ノ年齢ヲ定メ、或
ハ收穫スベキ材量ヲ定ム、尤モ伐木ノ適度ヲ定
ムルハ人々ノ主意ニ由テ異ナル者ナリ、其定メ
方ノ異ナル四アリ、第一木種ニ由テ年齢ノ極度
ニ達スルヲ待テ伐木スルアリ、第二材量ヲ多ク
收穫スルヲ至トシテ伐木スルアリ、第三利益ノ
多キヲ至トシテ伐木スルアリ、第四材質ノ品位
及ビ必需ノ用ヲ至トシテ伐木スルアリ、故ニ伐
木ノ適度ハ窮理上ヨリ之ヲ定ルアリ、又全成長

ノ度ヨリ之ヲ定ルアリ、窮理上ノ伐木適度ノ目的ハ其樹ノ氣候ト地味ト木種ノ性質トニ因テ十分ノ成長ヲ得テ後チ成長ノ遅々スルノ時ニ至ル迄存置スル事ニシテ、獨木種ノ年齢ノミヲ考テ、山至ノ利益及ビ使用ノ便否ニ關セザル者ナリ、今世ニハ斯クノ如キ伐木ハ甚稀ナレドモ、其樹ヲ貯ヘテ國ノ氣候ヲ補フ為メカ、或ハ雪嶺山崩ヲ防グ為カ、又ハ觀美ヲ成ス為ニハ久シク存置スル事アリ、全成長ノ度ニ至ルトハ、一樹ノ全ク成長ヲ遂ゲテ肥大ヲ致シ得タル時ヲ謂フ

此時ニ伐木スレバ材量モ全ク多クシテ莫大ノ産出ヲ得ル者ナリ、伐木ノ時全成長ノ度ニ至ルヤ否ヲ試定スルニハ、前年ニ伐リタル材量ノ多少ト、當時伐リタル材量ノ多少ト、後年ニ伐ル材ノ多少トヲ比較セバ、全成長ノ度ヲ察スルニ足レリ、凡ソ樹木ノ成長ハ初メ樹ノ幼ナル時ハ年輪ノ成ルハ甚小ナリ、樹幹漸ク長ジ、生育ノ熾シナルニ從テ年輪ノ厚サ順ヲ逐テ増加シ、既ニ成長ノ度ニ達スルノ後ハ年輪ノ厚サ減縮スル者ナリ、初メ年輪ノ厚サハ年ヲ逐テ増進シ、半途ニ

シテ平均シ、終ニ至テ減縮シ遂ニ成長セザルニ至ル、是ヲ以テ成長ノ度ヲ定ムベシ、譬ヘバ甲乙ニ林アリ氣候地味其他凡ベテ同一ノ措置ヲ為シ、甲林ハ百年ヲ以テ成長ノ極度トシ百年ヲ一週トシテ之ヲ伐木ス、乙林ハ二十五年ヲ一週トシテ之ヲ伐木ス、甲林ハ生長力盛ニシテ年輪増進ノ時ヲ經過ス乙林ハ二十五年目毎ニ四回之ヲ伐截スレドモ、生長力盛ニシテ年輪増進スルノ時ニ至ラズ、生長力ノ弱キ時ニ之ヲ伐ル故ニ得ル所ノ材量ハ百年ノ樹ヨリ甚尠シ、又甲林ヲ百

年目ニ伐リ、乙林ヲ二百年目ニ伐ニ、乙林ノ二百年目ニ伐ル材量ハ百年ノ者ヨリ亦タ材量尠シ、如何トナレバ百年ノ木ハ二百年ノ木ニ比スレバ生長力熾ニシテ年輪増進ノ時ヲ二回經過ス、而シテ二百年ノ木ハ勢力衰へ年輪減縮ノ時スケレバナリ、此理ヲ以テ推究セバ全成長ノ度ハ木種ニ由テ其期ニ先ツモ後ル、モ其適度ニ伐ル者ヨリ材量ノ尠キヲ察スベシ、故ニ山林樹木ノ適度ヲ確定スルニハ算當ト經驗ト最モ要用ナレドモ、樹木成長ノ事ニ深ク注意スレバ大

抵其要ヲ解スヘシ、樹木成長ノ實況好良ニシテ
 年輪ノ厚サ漸ク増進スル時ハ新芽必太クシテ
 長ク、葉ハ繁ク極青クシテ光澤アリ、樹皮平ニシ
 テ粗錯ナラズ、嫩枝軟ニシテ上ニ向ヒ、樹杪尖出
 シテ天ニ朝スルハ樹勢最モ熾シニシテ年輪増
 進スルノ時ナリ、成長極度ニ至リ樹勢漸ク衰へ、
 新芽弱ク前年ヨリ短ク、樹杪尖出セザルハ成長
 止ルノ微候ナリ、成長全ク止リ老廢ニ至ラント
 スル時ハ樹杪圓ク秋ニ至レバ樹頭ノ葉早ク黄
 下枝ノ葉ヨリ早ク落ツ、既ニ老廢ニ至レバ外皮

粗糲ニシテ或ハ木ト離レテ朽チタル所ヨリ木
 液ノ流出スル事アリ、或ハ蘚苔滑ニ生シ、女蘿附
 生シ、菌茸生シ、赤點或ハ黒點等ヲ現スルハ既ニ
 老廢セシ微候ナリ

伐木ノ時繩墨ヲ巧ニスベキ事

伐木ノ業ニ巧ナル者ハ伐リ倒シタル樹ヘ死費
 ナリ、繩墨ヲ施シテ使用適當ノ材ヲ得ルナリ、故
 ニ伐木家ハ各種使用寸尺ノ定法ヲ研究シテ熟
 知セカンバアル可ラズ、今概シテ之ヲ論ズレバ
 凡ベテ直材ヲ採ラントスル時ハ先ヅ伐リ倒シ

山林録 二編 卷之十 樹木栽培

タル樹木ノ幹ヨリ十分ニ長ヲ取り從テ角作り
ヲ爲ス者ナリ、然レドモ船舶ニ用ル材ニハ曲直
二種ノ別アルヲ以テ曲材ハ幹ノ彎曲シタル者、
及ビ幹ト大枝ト躡ル所ヲ任セテへ字形ニ取ル、
大小長短各定又大ナル根ノ曲リタル者アル時
法アレトモハ其根ニ據テ前法ノ如クス、而シテ又之ヲ角作
スルニハ曲リト長トニ從テ厚ヲ定メ、幅八成タ
ケ廣キヲ宜トス、故ニ直材ヲ獲ルハ易ク、曲リ材
ヲ獲ルハ難シ、又兩枝ノ叔ハ元來割裂シ易キ者
ナルヲ以テ佛國ニテハ之ヲ禁ズ、然レドモ本邦

所産ノ樺楠等ノ如キハ木理ノ構造異ナル所ア
ルニ由テ叔ノ間廣キ者ハ之ヲ使用スルモ害ナ
シトス、又松檜等ノ類ニテ椀檣材ニ供スベキ大
材ヲ取ルニモ各法アリ、之今畧是等ノ定法ヲ熟知
セズシテ木取ヲ為ス時ハ俗ニ謂フ(スンバ)物ヲ
獲テ實地使用ニ至テハ帝ニ冗費ヲ生ズルノミ
ナラス加フルニ職夫ノ手間賃ヲ増ス事大ナリ、
故ニ寸間不適當ノ材ヲ伐リ出シ、或ハ買入ル、
時ハ、タトヒ縱令其材ハ廉價ナリト雖モ工業上ノ使用
ニ至テハ寸間ノ定法ニ適シタル材ヲ高價ニ買

山林新説 七編 卷之三
入ル、ヲ却テ益アリトス、譬ヘバ今爰ニ尺締三
本ノ有スル寸間不適當ノ材アリ、尺締一本ヲ五
圓ト爲セバ此材ノ價十五圓ナリ、使用ノ時ニ常
リ三分ノニヲ刻スル事アレバ即チ此材ノ價ハ
尺締一本十五圓ノ上ニ職夫ノ手間ヲ加ヘタル
者ト同一トナルベシ、又爰ニ尺締二本ヲ有スル
寸法適當ノ材アリ、其價十五圓トスレバ尺締一
本ノ價七圓五十錢ナレドモ、之ヲ切費ナク細工
スルヲ得テ、速ニ落成スレバ職夫ノ手間ヲ省キ
從テ賃銀ヲ減スベシ、故ニ材價ノ廉不廉ハ使用

ニ適スルト否トヲ以テ考定スベシ

伐木ノ季節ヲ論ズ

山林ノ樹木ヲ伐採スル適當ノ季節ニ付テハ種
々ノ疑議アリテ未ダ一定ノ論ナシ、古人ノ説ニ
依レバ、伐木ノ好季節ハ秋ノ末ヨリ冬ヲ以テ規
則トスル者多シ、又世上一般ノ説ニ由レバ、冬ノ
中ニ伐レバ工業材ニシテ保存期永ク、且薪ニ用
テ輒ク燃テ復時ニ伐採セシ者ヨリ火力強シ、然
レドモ本邦ノ諺ニ竹八月ノ木六月ト謂フ事ア
リ、又木曾山ニテハ年々三月山開ヲ為シ、六七月

中ニ伐木シテ八月ヨリ谷川ヲ下シ十二月中ニ
美濃ニ出ス、故ニ針葉樹ノ松杉檜ハ夏時伐木スル
モ材質ヲ損傷スル事ナキガ如シ、佛國ノブーゲン山
ニテハ以前ヨリ夏モ伐木セシガ、此規則漸次一
般針葉樹ノ蕃生スル山林ニ波及シテ、實地ニ長
ジタル者モ植物ノ生理ニ從テ伐木ノ後直ニ外
皮ヲ剥グノ注意アレバ材ヲ輒ク乾スヲ得テ變
形スル事少ク、木體光澤アリ材色白ク人目ニ佳
ニシテ、材量モ輕ク從テ運搬ノ費モ廉ナリト云
ヘリ、然レドモ夏時木液ノ運行中ニ伐截スレバ

火力弱クシテ、且材ノ保存期ヲ短縮スル者ナレ
バ、潤葉樹ノ榊類ノ伐截ハ前説ニ抵觸スル事アリ、又多年ノ實驗ト精密ノ經驗ト利害得失ノ比
較スベキ大經驗トニ由テ疑議ヲ決定スルニ至
ル迄ハ、夏時ニ伐木スル説ヲ主張セザルヲ穩オモシナ
リトス、故ニ古人ノ説ニ由ルヲ當レリトス、到底
伐木ノ季節ハ生樹中ノ新層ノ部ト新アガヒニナラントス旧半層ノ
部トニ關係スル事ニシテ、旧層ニ關スル者ニア
ラズ、新層ニハ有機物アリテ、伐木スレバ腐敗シ
易シ、旧層ニハ其分ナシ、又材ノ收縮ハ伐木ノ季

節ト木質ト大氣ノ實況寒暖濕ニ由リテ遲速ト
レドモ必ズ幾許カ收縮スル者ナリ、素材ノ收縮
ハ木液ノ幾分カヲ蒸發スルニ由リテ大割ヲ生
ジ或ハ材ノ堅硬ヲ損シ、或ハ大用ヲ成サズルニ
至ル者ナリ、然レドモ材ノ乾燥ハ工業上ニ於テ
欵ク可ラザル事アリ故ニ割裂ヲ防クニハ徐々
ニ乾カスヲ要ス、材ヲ蓄ルノ注意モ伐木ノ後ハ
免メテ釀腐ノ難ヲ防グニアリ故ニ冬ノ伐木ハ
右ノ件々ニ適スル季節ト謂フベシ、如何トナレ
バ冬ハ蒸敗ノ患尠ク且徐々ニ乾テ翼年ノ夏ニ

到ルマデニハ殆ンド乾燥シテ夏時ノ酷熱モ畏
ル、ナキニイタル、若シ潤葉樹ヲ夏時ニ伐木セ
バ、外皮ヲ剥カシテ免メテ濕氣ナキ陰ニ置クベ
シ、此注意ハ熱帶地方ニ於テ最モ緊要ナリ伐木
中ハ啊所ニテモ此注意ハ易キ事ニシテ、運搬不
便ノ大材モ太陽ノ烈光ヲ防グ為ニ、伐出シノ時
地ニ落ちタル枝條其他木片ヲ以テ掩フベシ、今
秋冬伐木スルノ便ヲ數フレバ、冬ハ農隙ナレバ
農務ヲ妨グズ其利一ナリ、雪中ナラデハ出シ難
キ所アリ冬日伐テ之ヲ出セバ運搬ノ費ヲ省ク

其利二十ナリ、苗木ヲ移植シタル山林ハ雪中ニ伐
 木スレバ嫩木ヲ損傷セズ其利三十ナリ、又冬日伐
 リタル材ハ俄ニ烈日ニ當ラズ故ニ割裂ノ患尠
 シ其利四十ナリ、冬伐リタル材ハ翌年三月迄淡氷
 又鹹氷ニ浸セバ木蠹虫ノ種ヲ絶ス其利五十ナリ、
 又樹類ニ由テ秋冬ノ間ニ伐テ種子ヲ收穫スベ
 キ者アリ其利六十ナリ夏日伐レバ忽チ虫ノ生ズ
 ル樹アリ冬ノ伐木ニハ此害ナシ其利七十ナリ、夏
 伐リタル材ヲ草間ニ置ケバ蒸敗シ易シ冬ハ此
 害ナシ其利八十ナリ、材質ニ由リ夏伐レバ木液多

クシテ材色變ジテ用ヲ為サザル者アリ冬ハ此
 害ナシ其利九十ナリ、夏ハ伐木スルモ川下ヲ為ス
 ラ忌ム事アリ夏ハ河水時トシテハ溢流シ材ヲ
 流失スルノ患アリ秋冬伐木シテ川出シヲ為セ
 ハ此患ナシ其利十ナリ虫類ノ害其他故ニ秋
 冬ヲ伐木ノ季節トスルヲ益多クシテ害尠シト
 ス、急劇ノ需用アリテ針葉樹ヲ伐木スルノ外ハ
 既ニ前ニ謂フ如ク利害得失ヲ比較シテ夏時代
 木スルモ患害ナシトスベキ經驗ト理論ノ確定
 スルアルニアラザレバ秋冬ヲ伐木ノ季節トス

ルノ説ニ從フベシ

松脂ノ採取法

南向キノ暖ナル地ニ生ジタル松樅類ニテ、櫛ノ多キ木ナレバ脂ヲ多ク取ルヲ得ベシ、然シ脂ハ樹液ナリ、故ニ多ク取レバ其樹成長セザルモノナレバ、一本殘ラズ取ルヲ益アリトス、左ナクハ繆淚木、惡木、瘤木等ヲ取ルモ亦益アリトス、落葉松ノ脂ハ流體ナリ、故ニ取テ賣レバ利益アルモノナリ、落葉松ヨリ取りタルハ上等ノ的列並油ナリ、脂ノ堅塊ハ以テ樂器ヲ光澤ナラシム、復漆

ノ調合ニ用ユ、樅モ本邦ノ産ト同シ是レモ落葉松ト同質ナリ、故ニ賣物ニハ多ク此脂ヲ取ルヲ可ナリトス、此樅ハ葉ハ松ニ似テ脂ハ固形體ナリ、此脂ハ厚濃ナレバ瀝青ニナル上等ノモノナリ、落葉松及ビ樅ノ脂ノ固マリタルハ繪師ノ常ニ用ユルモノナリ○松脂ハ固形體ナリ、瀝青ニナレドモ落葉松及樅ノ瀝青ニ比スレバ下等ナリ、然シ瀝青ハ松ヨリ取りタルモノ多クシテ樅ヨリ取りタルモノ少シ、流動瀝青即チ吧嗎油ハ松ヨリ多ク出來ルモノナリ

落葉松ノ脂及的列竝油ノ取り方

落葉松ノ脂ヲ取ルニハ地ヨリ一尺程上ヘノ木幹ヘ螺錐ヲ以テ深サ三寸餘ノ孔ヲ穿テ竹管ヲ挿シ込ミ下ヘ鉢ヲ置キ脂ノ流レ出ルヲ受ケシム十五日毎ニ巡視シ此鉢ニ在ル脂ヲ取ベシ時節ハ春三月頃ヨリ始ムベシ夏日ハ脂ノ出ル少シ冬ニ至レバ木幹ノ孔ヲ大クスベシ斯クシテ五六年ノ後脂流出セザルニ至ラバ又元ノ孔ヨリ六七寸上ヘ孔ヲ穿テ竹管ヲ挿込ム前ノ如シ漸々ニ上ヘ孔ヲ穿テ脂ヲ流出セシムベシ落葉

松ノ脂ヲ以テ極上等ノ的列竝油ヲ取ルニハ日當ノ宜キ所ヘ適意ニ漆灰ニテ一坵ヲ築キ一方ヘ的列竝油ノ流出ル口ヲ附ケ溝ヲ通シテ其脂ヲ漆灰ノ地中ニ投ジテ太陽ニ曝テ溶解セシムレバ最良ノ的列竝油一方ノ溝ヨリ流出スルヲ鑿或ハ鉢ヲ置テ受ベシ第一圖又竈ヲ築キ釜ヲ掛ケ火ヲ以テ脂ヲ溶解シテ的列竝油ヲ流出セシムル法アレドモ温度ノ加減ハ適當ヲ得難キ故ニ多年此事ニ練熟シタル人ニアラザレバ能ハズ且ツ何程熟練シタル人モ火ヲ以テ製スル

八大陽ニ曝シテ取リタル的列竝ニ劣ルモノナ
レバ大陽ニ曝シテ取ルヲ良トス
縦ハ伐木ノ期ニ一年先ダナテ上皮ヲ長サ三寸
或ハ四寸ニ周圍ヲ剥シ、一個所へ流ル様ニ口ヲ
付ケ受鉢ヲ置キ取ルヲ良トス第一如シ圖翌年伐木
シテモ材ノ害ニナラザルモノナリ、又長サ一尺
一寸巾ニ寸ニ皮ノ白キ所迄削リ脂ヲ流出セシ
ムルモ宜シ、脂ヲ取ル毎ニ孔ノ四方ヲ少シク小
刀ニテ削リ取り、脂ノ能ク出ル様ニスベシ、溼青
ヲ取ルニハ釜へ入レ煮テ悉ク溶解スルニ至リ

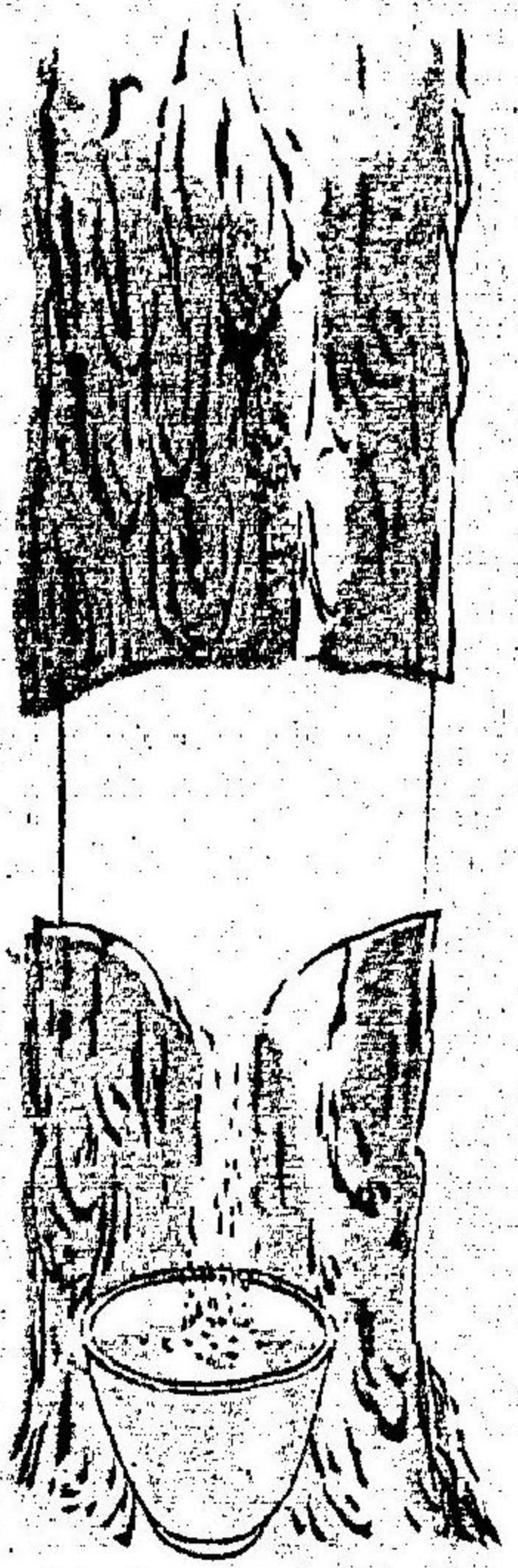
山林新説二編 卷之十 蘇州府志

テ火ヲ去ベシ、而シテ木綿ヲ以テ瀝過シテ滓ヲ
去レバ上等ノ溼青出来ルナリ、伐木ノ前年一度
ニテ壯木ハ六貫七百貳拾目ヨリ五貫三百七拾
六目出ルモノナリ、極最良ナル樹ニシテ南向ノ
地位ノヨキ所ナレバ一ケ年ニ四貫目餘ヲ得ベ
シ、松ハ黒松ノ直径一尺以上ノ松ナラバ脂ヲ取
ベシ、孔ノ長サ一尺五寸巾五寸外皮ノ半バニ至
ル迄、角ニ削リ其中へ又適宜ニ孔ヲ穿テ、一周間
ニ一度孔ノ四方ヲ浚ベシ、大抵三千本ノ木ヲ一
人ニテ受持日々脂ヲ取ルベシ、脂ノ出ル稀少ナ

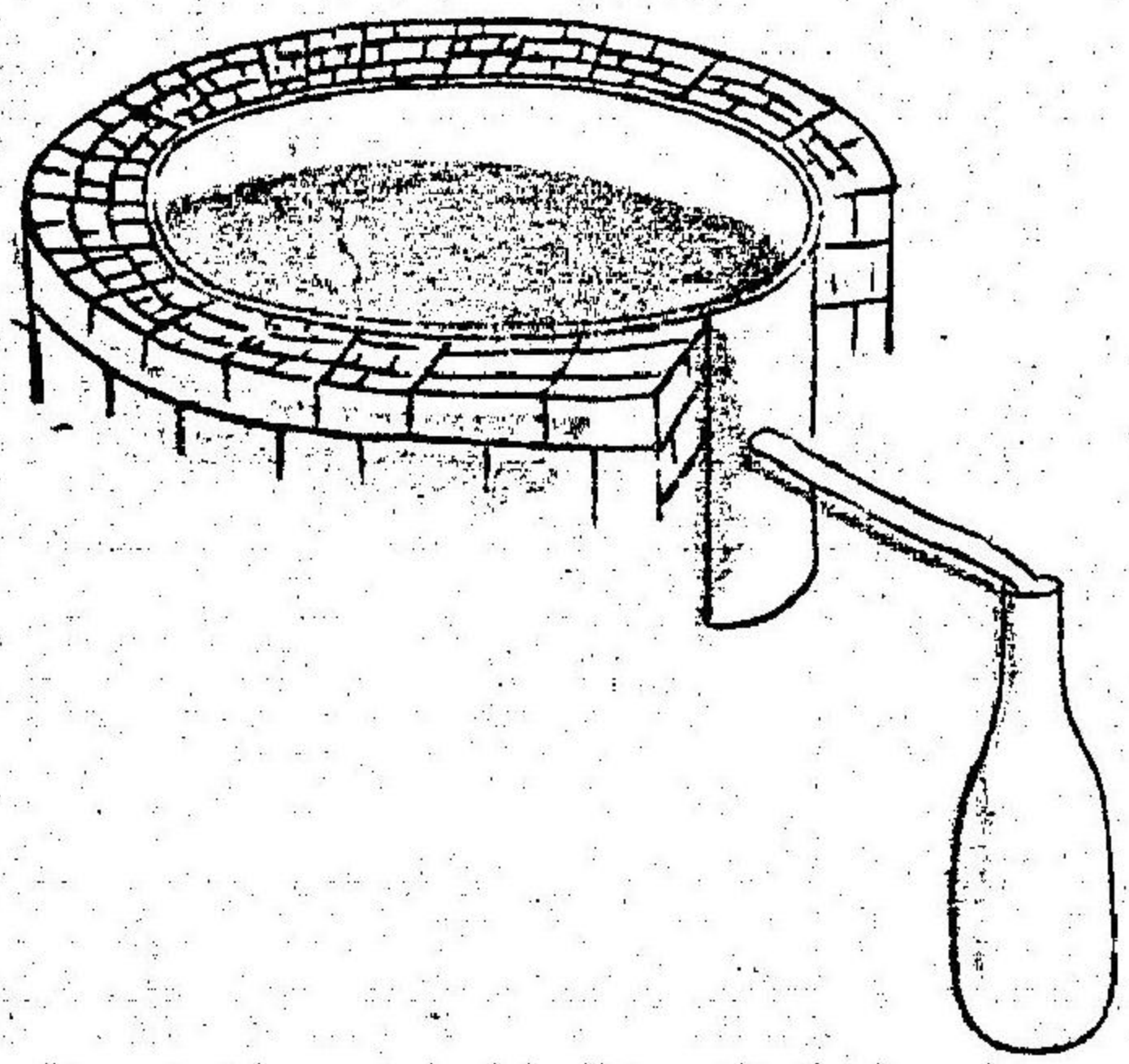
山林新説二編 卷之十 蘇州府志 三十五 蘇州府志

山林新說
卷之二
三六
真無樓藏版

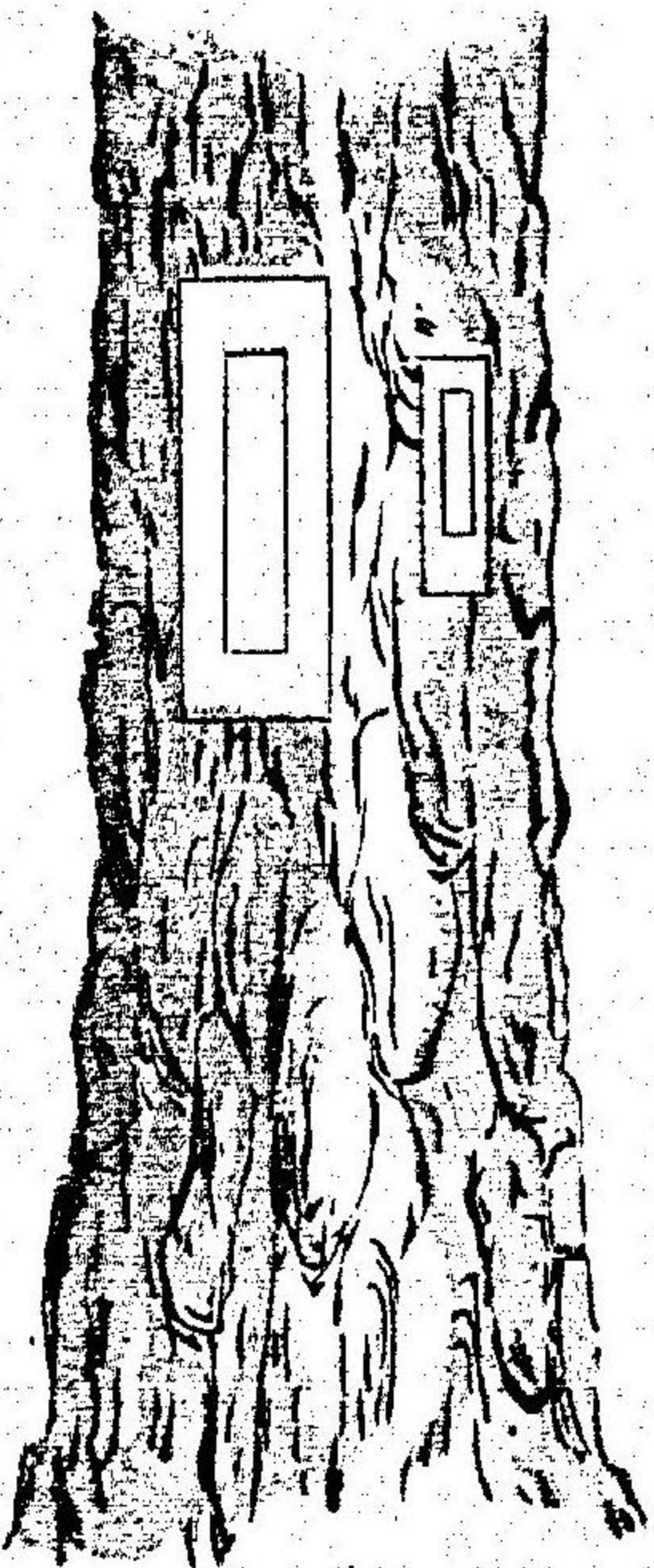
圖一第



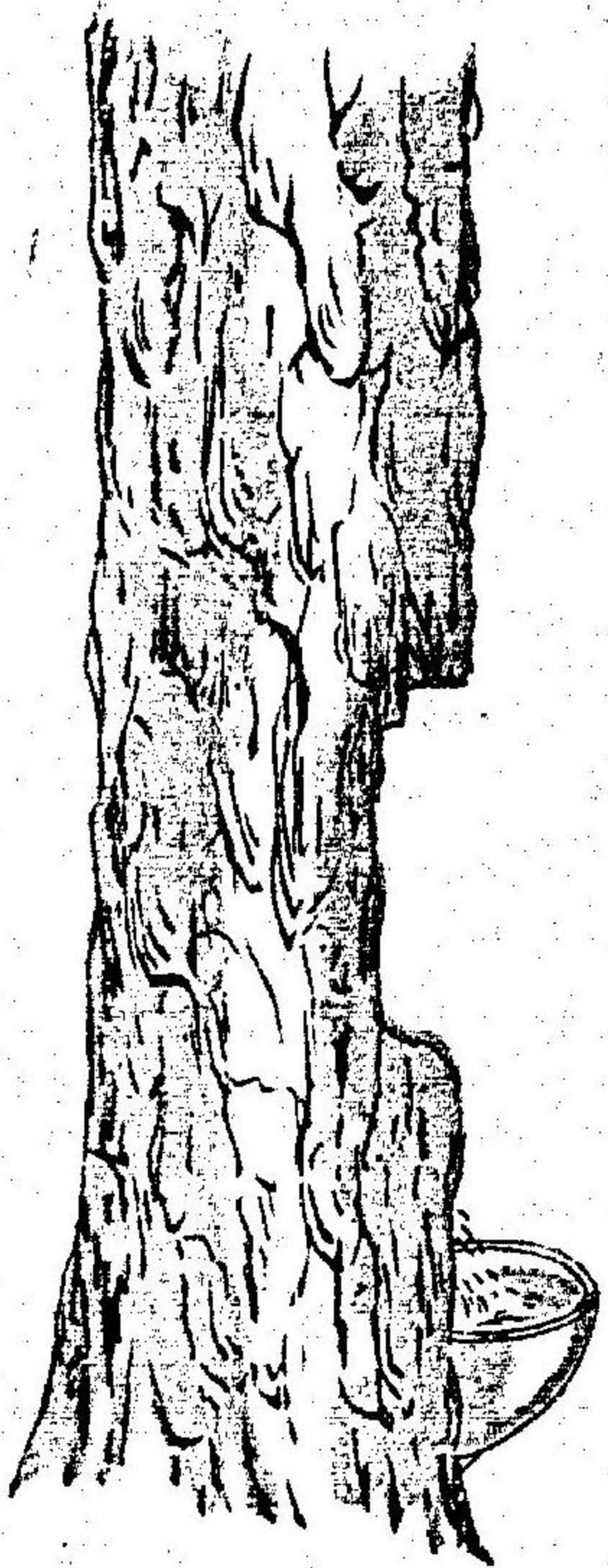
圖二第



圖三第



圖四第



山林新說
卷之二
三六
真無樓藏版

ル時ハ孔ノ上下ヲ少シク削リ、四五年ノ後ハ階
子ヲ用ルニ至ル、故ニ又脇へ小サク孔ヲ穿テ木
ヲ休メル為ニ一年隔テ、孔ヲ作ル事アリ、四貫
目餘ヨリ五貫三百七拾六目一度ニ一本ノ脂ヲ
取リシ量ナリ、第三四圖流動瀝青ヲ取ルニハ伐
木ノ後大小ノ枝ヲ集メ土ニ埋メテ木炭ニテ焚
テ瓦^ガ斯^スヲ抜ケバ流動瀝青流出スル事、其松材ノ
一割ナリ即チ十貫目ノ松ノ大小枝ニテ一貫目
ノ脂ヲ得ルナリ

枳樹ノ皮ヲ剥ギ取ル法

枳樹又枳木トモ云フ、其皮ヲ水樽木ト云ヒ、或ハ
枹木ト云フ、又或書ニ厚浮皮ト云フ、即チ舶來セ
ル栓ニシテ俗之ヲ「コルク」ト云フ、(英名ナリ)枳樹ノ
皮ハ、諸酒類、諸水藥ノ罐、罐ノ口ヲ密閉スル栓又ハ
木履ノ底、浮キ道具、水泳者兩腋ニ附ケ、又ハ難船
ノ時身體へ附ケテ浮ク道具ニシテ兼テ船中ニ
貯^ルフ可キモノ、其他之レニ類似ノ用極テ多シ、此
樹ハ、歐羅巴ニテハ佛朗西、伊太里、是班牙、葡萄牙
ノ南方ニ多ク産シ皮ヲ剥テ諸國ニ輸出ス、佛朗
西南ノ氣候ハ本邦、中國ヨリ南ノ氣候ト相似

タリト聞ク、其樹未ダ嫩キ時ハ其皮至テ堅シ、樹ノ年齢二十年ヨリ二十五六年ノ時、初メテ剥ク皮ヲ名ケテ最初ノ皮(リキジブレニ)或ハ男皮(リエシアル)ト云フ、樹ノ二十年以上ニ至ル時ハ、全幹ノ皮ヲ半分ニ剥グベシ、幹ノ皮ヲ半分ニ剥グトハ枝下ヨリ皮ヲ両方ヘ分ツ為メニ幹ノ左右ヘ各一筋ヲ切り通セバ、外皮ハ木液ノ運行止マリテ、自然ニ乾キ次第ニ反張スル後ニ剥ギ取ルヲ云フ、皮ヲ剥グニハ外皮ソリカールヲ切り通シテ内皮ニ傷ツケヌ様ニ注意スベシ、若シ誤テ内皮アモカワヲ傷ツクレバ、幹

ヲ枯スモノナリ、此初メニ剥ダル皮ハ價ナシ、然シ此皮モ石室又ハ樽箱等ニ入レ水ヲ十分ニ注キ密閉シテ一年以上置ケバ次ニ剥ダル皮ト異ル事ナシト聞ケリ、此後七八年ヨリ十年目毎ニ樹皮ヲ剥グヲ得ベシ、第二回ニ剥ダル皮ハ最初ノ皮ヨリ柔軟ナリ、女皮(リキジブレニ)ト云フ、此皮ヲ剥グニハ幹ノ全長ニ至ルベシ、全長トハ根際ヨリ幹頭マデ次第ニ年ヲ種ネ老木ニナリタル時ハ、最初ニ剥ダル如ク下枝迄剥グベシ、凡ベテ剥皮ノ季節ハ木液ノ上昇スル時ヲ可トス、故ニ六月

ヨリ九月迄二期トス、枳樹ノ益ハ一「メートル」即チ凡
ソ我五十五間四方ノ山林ヨリ百「キログラム」凡ク我二
十七貫目ノ皮ヲ得ベシ、樹ノ善良ナルモノハ、尚
二倍、或ハ三倍アルモノナリ、但シ剥タル皮ハ常
ニ水中ニ漬置キ水ノ浸タルヲ取り出シ平ナル
所ニ積ミ疊ネ、種石ヲ置キ平坦ナラシメテ乾ス
ヲ要ス

樽材並寸法ノ事

葡萄酒用樽ノ欄材ニハ本邦所産ノ楮及ヒ栗ノ
材最良ナリ、佛國ニテハ樽一個ノ價二十五「フラン」

ナリ、凡我金五圓内外、割リシ儘ノ欄材ハ一「メートル」
一本ニテハ我「タリ」ニ付價二百五十「フラン」即チ我金四
十五圓ヨリ金五十圓ニ當ル、佛國一ヶ年葡萄酒
用樽材ノ買入レ高我十貳万圓ナリ、故ニ本邦所
産ノ楮栗等ヲ以テ樽材ヲ木取リテ輸出セバ物
産ノ一トナルベシ、但シ横濱ヨリ佛國迄帆前船
五圓カ、
樽ノ全長ハ二尺八寸、底ヨリ底迄ノ長ハ二尺四
寸八分ナリ、樽ノ両端ハ直径外法二尺一寸五分
内法一尺九寸五分アリ、是レハ西方ノ底ノ所ナ

リ其冲缺、最太キ所ハ直径二尺二寸八分ノ外
法ニシテ二尺一寸五分ノ内法ナリ木ノ厚サ六
分五厘ナリ上下ノ底板ハ周圍六尺二分ニシテ
直径一尺九寸一分ナリ、底板ノ嵌溝ノ深サ凡一
分ナリ、欄材一挺ノ巾ハ中央ニテ四寸ナレバ兩
端ハ三寸五分ニ挽落スベシ因テ豫メ此割合ヲ
以テ木取ルベシ

瓦斯燒ノ法

某氏試驗ニ由レバ、三尺三寸ノ平方面ヲ燒ニ凡
ソ一石一斗九合ノ瓦斯ヲ費ス、一人ニテ一日平

均十時間働ケバ百三十二尺ノ平方面ヲ燒ク、一人
ニテ火口ニツアル瓦斯球ヲ容易ニ運轉ス、平常
之レヲ盛ニ用レバ三尺三寸平方面ヲ燒ク入費ハ
三錢ヨリ多カラズ、方今新造ノ船舶ニ遍ク此外
面ヲ燒ク法ヲ用テ、現ニ其功ヲ奏ス、然レドモ其
材全ク乾燥セザレバ木心ニ腐朽ヲ醸ス事アリ
此良法ヲ行フト雖モ材ノ保チニ付テノ一般普
通ノ法ヲ欠ク可ラス

蒸材時間ノ事

木材ヲ柔軟ニスル爲、船舶ノ外板ヲ張り、小船、

粥ヲ作り、階子ノ手摺、其他凡ベテ揉テ遣フタメニ、蒸材筒ニ入ル、時ハ其適度ノ時間ヲ知ル事緊要ナリ、此時間ハ、木ノ厚サニ由テ長短アリ、例スルニ厚サ六寸ノ材ハ四時間、厚サ八寸ヨリ一尺ノ材ハ八時間ヨリ九時間蒸スベシ、凡ベテ厚サ一寸ニ付一時間ノ割合ナリ

白蟻ノ説

我國未ダ材木ヲ蠹蝕スル白蟻ト稱スル惡虫アルヲ聞ズト雖モ、一朝此災害ニ逢ヘバ悔ユトモ及ブナキ、大患ヲ醸スモノナレバ、今前轍ヲ録

シテ後ノ戒心トス、白蟻ハ其形蟻ニ似テ四翅アリ、故ニ白蟻ノ名アリ、多ク印度地方ニ産シ、木材ヲ蠹蝕スルノ迅速ナル喫驚スベシ、其大ナルモノモ六分ニ過ギズ、群集ヲ好ミ、巧ニ巢ヲ作ルハ蜂類モ及ブ能ハズ、一匹ノ唯一晝夜二十四時間ニ八萬箇ノ卵ヲ生ズ、熱帶地方ニテハ木製ノ家屋及ビ家具其他百般ノ商品等ヲ蠹蝕ス、若シ其豫防ナケレバ皆悉喰荒サレ、金石ノ外ハ此害ニ遇ハザルハナシ、此虫ハ常ニ材ノ木口ヨリ入り、四方ヲ薄ク殘シ、内部ヲ悉ク細粉ニスル故ニ外

面ヨリ其虫生ゼシヲ知ル能ハズ、在昔佛國フツノクニハ、
港ニ此虫ノ渡來セシ事アリ、造船場ノ貯蓄材ヲ
多ク食荒シ、又船舶ヲ害シ、近傍市街ノ家屋ヲ荒
スニ及ヘドモ、之ヲ防ク能ハズシテ尚漸々蔓延
シテ大害ヲナセシ事アリ、本邦ニ飛蟻ト云フ虫
アリ、善ク家屋ニ用ヒタル杉松ノ柱等ノ下部ヨ
リ蝕ヒ材中ヲ控々ニスル事アリ、若シ白蟻ノ生
スル事アラバ貯蓄材ハ速ニ水中へ投ジテ水ヲ
蒙ラシメ、柱類其他既ニ建築製造セシ材ハ、木口
ヨリ膳礬水ヲ注入シ、或ハ之ヲ塗抹シテ其害ヲ

防グベシ

山林新説二編下卷終

山林新説二編下卷終
四三
東馬妻女反

山形新書一編 卷之十 其書有源

明治十二年一月十六日
版權免許

著述兼
出版人

發兌

書肆

東京神田區
三崎町寺丁目九番地
静岡縣士族

片山直人

東京新橋竹川町十七番地

櫻水舎

東京日本橋通三丁目四番地

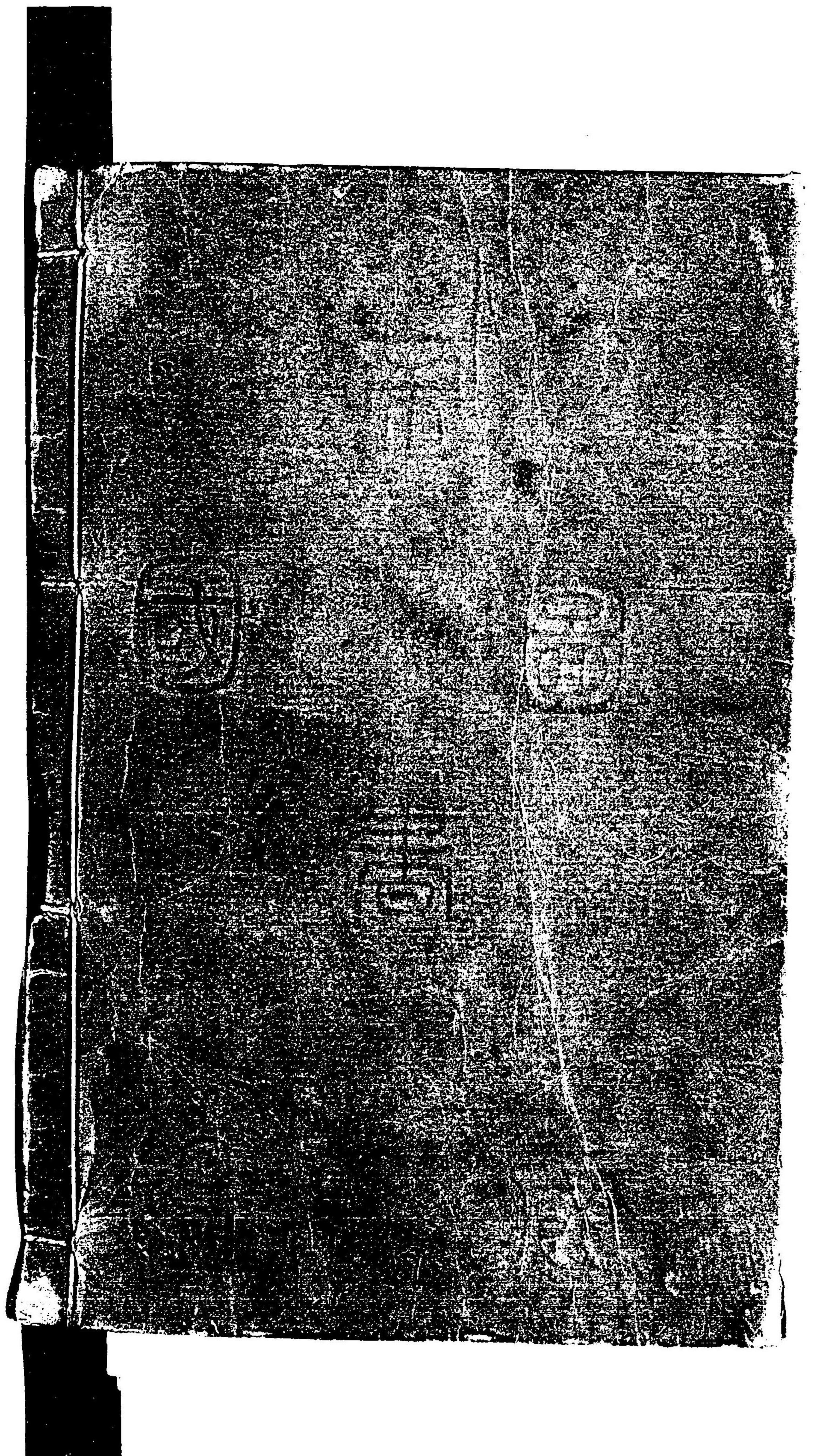
丸屋善七

東京馬喰町二丁目七番地

森屋治兵衛

Handwritten characters in a decorative square frame, possibly a library or collection stamp.

Vertical text along the right edge of the page, likely a page number or title.



山林新說

三四

8
2
8